

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年6月29日

【事業年度】 第6期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

【会社名】 株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス

【英訳名】 VITAL KSK HOLDINGS, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村 井 泰 介

【本店の所在の場所】 東京都世田谷区弦巻一丁目1番12号
(上記は登記上の本店所在地で実際の業務は下記最寄りの連絡場所で行っております。)

【電話番号】 (03)3275 - 3301(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務部長 高 橋 喜 春

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋室町一丁目9番12号

【電話番号】 (03)3275 - 3301(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務部長 高 橋 喜 春

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高 (百万円)	532,045	541,650	547,581	564,655	548,012
経常利益 (百万円)	2,099	4,608	6,178	6,632	6,125
当期純利益又は当期純損失() (百万円)	1,067	3,154	3,908	4,235	4,527
包括利益 (百万円)	3,670	5,426	8,536	4,801	14,809
純資産額 (百万円)	51,195	56,264	64,088	67,566	78,208
総資産額 (百万円)	262,688	270,622	280,363	279,373	304,422
1株当たり純資産額 (円)	859.10	944.13	1,075.48	1,155.26	1,390.89
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額() (円)	17.71	53.23	65.95	71.96	79.51
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)					73.56
自己資本比率 (%)	19.4	20.7	22.7	24.0	25.5
自己資本利益率 (%)	2.1	5.9	6.5	6.5	6.2
株価収益率 (倍)		13.24	13.22	10.82	11.51
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,226	12,863	10,123	10,409	9,515
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	37	4,474	2,238	2,602	13,755
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,788	6,510	1,573	627	6,432
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	25,171	27,050	33,360	25,206	27,398
従業員数 (人) 〔外、平均臨時雇用人員〕	3,794 〔1,265〕	3,707 〔1,303〕	3,598 〔1,294〕	3,413 〔1,348〕	3,763 〔1,441〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第3期、第4期及び第5期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第2期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

4 第2期の当期純損失は、東日本大震災の災害による損失の計上等によります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
決算年月		平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
売上高	(百万円)	1,082	1,091	1,339	1,770	1,868
経常利益	(百万円)	789	808	1,048	1,180	1,026
当期純利益	(百万円)	717	777	1,019	1,150	1,045
資本金	(百万円)	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
発行済株式総数	(千株)	61,224	61,224	61,224	61,224	61,224
純資産額	(百万円)	44,908	45,330	45,638	45,054	43,113
総資産額	(百万円)	86,030	87,837	91,952	95,493	97,381
1株当たり純資産額	(円)	757.74	764.85	770.05	774.88	771.06
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	6.00 (6.00)	12.00 (6.00)	14.00 (6.00)	16.00 (8.00)	18.00 (8.00)
1株当たり当期純利益金額	(円)	11.90	13.12	17.20	19.55	18.35
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	(円)					16.95
自己資本比率	(%)	52.2	51.6	49.6	47.2	44.3
自己資本利益率	(%)	1.6	1.7	2.2	2.5	2.4
株価収益率	(倍)	56.82	53.75	50.71	39.86	49.86
配当性向	(%)	50.4	91.5	81.4	81.9	98.1
従業員数 〔外、平均臨時雇用人員〕	(人)	3 〔1〕	3 〔1〕	3 〔1〕	43 〔4〕	43 〔3〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第2期から第5期にかけての潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2 【沿革】

年月	事項
平成20年11月	株式会社バイタルネット(現・連結子会社)と株式会社ケーエスケー(現・連結子会社)が、株式移転により共同持株会社を設立することに合意し、契約書を締結
平成21年1月	株式会社バイタルネットと株式会社ケーエスケーの臨時株主総会で、株式移転計画を承認
平成21年4月	株式移転の方法により共同持株会社「株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス」を設立
平成21年4月	東京証券取引所市場第一部に上場
平成22年4月	株式会社V Kシェアードサービス(現・連結子会社)を設立
平成26年1月	連結子会社の株式会社井上誠昌堂と株式会社ファイネス(現・持分法適用関連会社)が合併
平成26年7月	連結子会社の株式会社バイタルネットが株式会社オオノ(現・連結子会社)を株式取得により子会社化

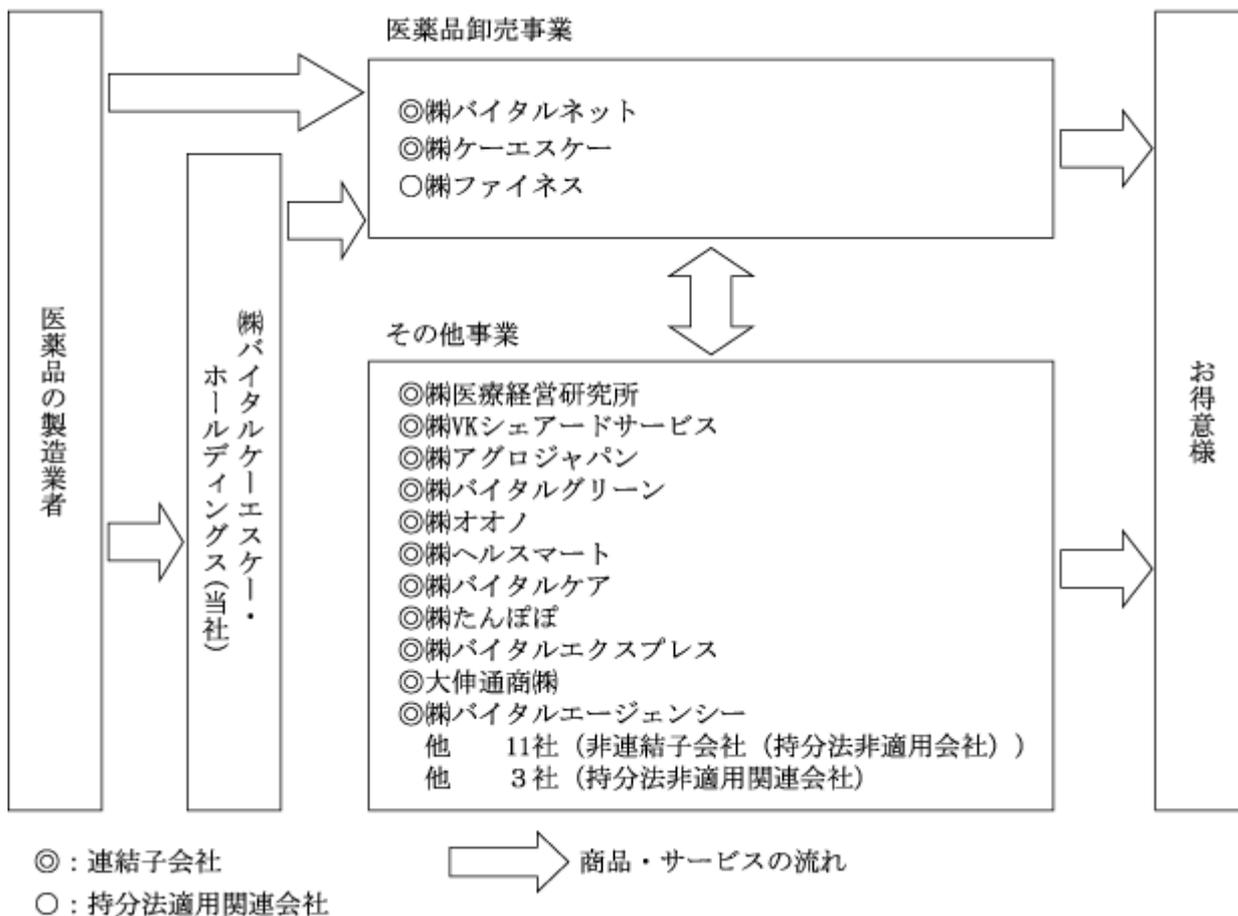
3 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社24社及び関連会社4社により構成され、医薬品卸売事業及びその他事業の2部門に係る事業を主として行っており、その他事業では医薬品等の小売業、農薬や動物用医薬品等の卸売業、運送業、介護サービス業、医療機関に対するコンサルティング業、損害保険代理業、不動産斡旋業、駐車場業等の事業活動を行っております。

セグメントの名称	関係会社
医薬品卸売事業	当社、(株)バイタルネット、(株)ケーエスケー、(株)ファイネス
その他事業	(株)医療経営研究所、(株)VKシェアードサービス、(株)アグロジャパン (株)バイタルグリーン、(株)オオノ、(株)ヘルスマート、(株)バイタルケア (株)たんぼぼ、(株)バイタルエクスプレス、大伸通商(株)、(株)バイタルエージェンシー 他14社

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。

〈事業系統図〉



4 【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事 業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
㈱バイタルネット (注2、 4)	仙台市 青葉区	3,992	医薬品 卸売事 業	100.0	・当社より医薬品を仕入れております。 ・当社は契約に基づき、経営指導を行っております。 ・当社は業務委託契約に基づき、一部の業務を受託しております。 ・当社は業務委託契約に基づき、一部の業務を委託しております。 ・当社の買掛金に対して、担保を受けております。 ・当社の共同基幹システムを契約に基づき、使用させております。 役員の兼任等・・・有
㈱ケーエスケー (注2、 4)	大阪市 中央区	1,328	医薬品 卸売事 業	100.0	・当社より医薬品を仕入れております。 ・当社は契約に基づき、経営指導を行っております。 ・当社は業務委託契約に基づき、一部の業務を受託しております。 ・当社の買掛金に対して、担保を受けております。 ・当社の共同基幹システムを契約に基づき、使用させております。 役員の兼任等・・・有
その他 11社					

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事 業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
㈱ファイネス	石川県 金沢市	98	医薬品 卸売事 業	33.4	・連結子会社であるバイタルネットより医薬品を仕入れております。 役員の兼任等・・・有

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 特定子会社に該当します。

3 記載内容は、平成27年3月31日現在の内容を記載しております。

4 ㈱バイタルネット及び㈱ケーエスケーについては売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(㈱バイタルネット)	(㈱ケーエスケー)
(1) 売上高	269,781百万円	260,309百万円
(2) 経常利益	2,206百万円	2,228百万円
(3) 当期純利益	1,841百万円	1,175百万円
(4) 純資産額	45,109百万円	31,702百万円
(5) 総資産額	148,899百万円	134,867百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
医薬品卸売事業	2,783 [1,068]
その他事業	980 [373]
合計	3,763 [1,441]

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、嘱託契約の従業員を含む。)であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、パートタイマーの人員数を記載しております。
- 3 前連結会計年度末に比べ、その他事業の従業員数が380名増加しております。主な理由は子会社である(株)バイタルネットが(株)オオノを子会社化したことによるものです。

(2) 提出会社の状況

平成27年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
43 [3]	47.6	1.58	7,451,000

セグメントの名称	従業員数(人)
医薬品卸売事業	43 [3]
その他事業	
合計	43 [3]

- 注) 1 従業員数は就業人員数(社外から当社への出向者及び嘱託契約の従業員を含む。)であり、臨時従業員数は〔 〕内に年間の平均人員を外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、パートタイマーの人員数を記載しております。
- 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

一部の連結子会社に労働組合が組織されておりますが、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策等により、景気は緩やかな回復基調が続いているものの、消費税増税の影響による個人消費の落ち込みや円安などの影響により、先行きは不透明な状況であります。

当社グループの主たる事業である医薬品卸売業界におきましては、国の医療費抑制策により平成26年4月の薬価改定で2.65%（消費税増税分を除くと5.64%）の薬価基準の引下げが行なわれました。また、医薬品流通におきましても平成26年4月の消費税増税前には駆け込み需要が発生し、当連結会計年度はその反動や増税後の受診抑制傾向、急速なカテゴリーチェンジ、特に長期収載品からジェネリック品への移行の影響等により医薬品市場はやや縮小いたしました。

このような中、当社グループにおきましては、平成25年4月から3カ年の第2次中期経営計画がスタートし、当連結会計年度が2年目となりました。『医薬品卸売事業において、顧客とWin-Winの関係を構築する』『地域包括ケアシステムに関連した事業に投資し、地域のヘルスケアインフラの構築に貢献する』の2つを中期ビジョンに掲げ、地域におけるヘルスケア・コーディネート機能の発揮を目指しております。

平成26年1月には本業の医薬品卸売事業の強化のために、グループ会社の㈱井上誠昌堂（本社：富山県高岡市）と石川県金沢市に本社を置く同業の㈱ファイネスを合併させ、同社を持分法適用関連会社にいたしました。また、平成26年4月25日には同社の第三者割当増資（出資比率33.4%）を引き受け、より強固な関係を構築しております。当社と㈱ファイネスが資本業務提携契約を締結したことにより、当社グループは主力商圏である東北・新潟エリアと近畿エリアに、事業基盤が強化された合併新会社の北陸エリアが地続きで繋がることになり、より一層の収益力の向上と事業機会の拡大が期待できます。

平成26年7月には、ヘルスケア・コーディネート事業の一環として、サービス付き高齢者向け住宅を仙台市青葉区（住宅名：ベルハート西公園）及び兵庫県豊岡市（住宅名：四季の里とよおか）の2箇所をオープンいたしました。これにより、周辺医療機関との関係を強固にするだけでなく、当社グループとしての住宅事業や介護事業における新たな収益の確保が期待できます。また、同月には、事業子会社である㈱バイタルネット（本社：宮城県仙台市）が、宮城県を中心に1都5県に50店舗を超える調剤薬局を展開している㈱オオノを完全子会社化いたしました。これを機に、ヘルスケア・コーディネート事業をより一層推進し、更なる収益力強化を目指します。

しかしながら、前述したような、主たる事業である医薬品卸売事業での市場の縮小の影響により、当連結会計年度の業績は、連結売上高548,012百万円（前年同期比97.1%）、連結営業利益1,812百万円（前年同期比56.7%）、連結経常利益6,125百万円（前年同期比92.4%）、連結当期純利益4,527百万円（前年同期比106.9%）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

医薬品卸売事業

医薬品卸売事業におきましては、急速なカテゴリーチェンジの中においても、新薬創出・適応外薬解消等促進加算制度の対象品や新製品（先発品）の販売に注力し、販売額の確保に努めてまいりました。また、利益面では一部のメーカーでの共同仕入による利益の獲得に努めるとともに、カテゴリーチェンジへの的確な対応として単品単価による納入価交渉にも注力してまいりました。さらに主要な事業子会社（㈱バイタルネットと㈱ケーエスケー）では、平成24年4月より本格稼働した営業戦略システム「VKマーケティング」により、得意先別営業損益状況を基にした営業戦略を実行し、収益力の維持・向上に引き続き努めるとともに不採算先の取引改善交渉にも注力してまいりました。

事業子会社の㈱バイタルネットでは、平成27年3月に宮城県黒川郡大和町に業界トップレベルの機能を持つ「宮城物流センター」が本格稼働いたしました。これまで以上に高品質で効率的な物流を実現するとともに高い災害対応能力を獲得することができました。また同時に、同物流センター内にコールセンターとして2拠点目となる「お客様センターあおば」を開設いたしました。北東北3県と宮城県をカバーし、支店業務の集約化と営業のサポート力強化を推進してまいります。

しかしながら、前述のような市場の落ち込みをカバーすることができず、売上高は、524,039百万円（前年同期比95.3%）、セグメント利益（営業利益）は、1,503百万円（前年同期比54.2%）となりました。

その他事業

その他事業におきましては、㈱オオノの連結子会社化により売上高は大幅に伸長いたしました。農薬の卸売事業等において消費税増税前の駆け込み需要の反動が大きく、売上高は、23,973百万円（前年同期比161.8%）、セグメント利益（営業利益）は、223百万円（前年同期比65.7%）となりました。

（２）キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、27,398百万円（前連結会計年度末は25,206百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において、営業活動による資金の増加は9,515百万円（前連結会計年度の減少額10,409百万円）となりました。これは主として、法人税等の支払額1,781百万円（前連結会計年度は3,774百万円）等の減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益6,390百万円（前連結会計年度は6,929百万円）の計上、非資金項目である減価償却費2,581百万円（前連結会計年度は2,213百万円）の計上等の増加要因によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において、投資活動による資金の減少は13,755百万円（前連結会計年度の増加額2,602百万円）となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出3,460百万円（前連結会計年度は4,846百万円）及び投資有価証券の取得による支出3,070百万円（前連結会計年度は524百万円）及び定期預金の純増加額2,879百万円（前連結会計年度の純減少額8,157百万円）等の減少要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において、財務活動による資金の増加は6,432百万円（前連結会計年度の増加額627百万円）となりました。これは主として、自己株式の取得による支出2,073百万円（前連結会計年度は785百万円）及び配当金の支払額911百万円（前連結会計年度は948百万円）等の減少要因があったものの、転換社債型新株予約権付社債の発行による収入10,050百万円等の増加要因によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年度比(%)
医薬品卸売事業	487,352	95.4
その他事業	18,387	157.5
合計	505,740	96.8

- (注) 1 金額は仕入価格によっております。
 2 セグメント間の取引については相殺消去しております。
 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年度比(%)
医薬品卸売事業	524,039	95.3
その他事業	23,973	161.8
合計	548,012	97.1

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2 金額は、販売価格によっております。
 3 主な相手先別の販売実績の総販売実績に対する割合が10%以上に該当するものではありません。
 4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

医療用医薬品は、平成26年4月の薬価改定では2.65%（消費税増税分を除くと5.64%）の薬価基準の引下げが行われました。今後も薬剤費の抑制政策は継続されることが予想されます。また、平成27年3月期には大きなカテゴリーチェンジが起きました。

このような状況の中、当社グループは商品個々の特性に応じた価格を設定し、さらに、お得意様との取引状況を加味した価格管理を一層徹底してまいります。それと同時に、お得意様向けシステムの充実を図る一方、メーカーに対する新たなフィージネスの開発など付加価値の創造にも積極的に取り組んでまいります。

また、平成25年4月から始まりました第2次中期経営計画の中期ビジョンを達成すべく、新たなヘルスケア・コーディネート事業にも精力的に取り組んでまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成27年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 医療保険制度改革について

政府は、後期高齢者医療保険制度の廃止、医師不足の解消、新型インフルエンザ等への対応及び癌・肝炎対策の拡充、地域包括ケアシステムの構築等、医療崩壊を食い止めるべく新たな医療保険制度体系の実現に取り組んでいます。その内容によっては、事業環境の変化へスピーディーに対応する必要があります。

(2) 薬価基準について

当社グループの主要な取扱商品である医療用医薬品は薬価基準に記載されております。薬価基準は保健医療で使用できる医薬品の範囲と使用した医薬品の請求価格を定めたもので概ね2年に一度4月に改定されます。薬価基準は販売価格の上限として機能しております。

(3) 医薬品メーカーの価格政策に関するリスク

当社グループの主力事業である医薬品卸売事業の売上総利益の主な構成は、販売価格と仕入価格の差である売買差益と、一定期間の仕入金額や販売金額に応じて医薬品メーカーから支払われる割戻金及び販売報奨金からなります。

平成22年4月に行なわれた薬価改定から「新薬創出・適応外薬解消等促進加算」という制度が試行的に導入され、今回の薬価改定でも継続されております。一部の医薬品メーカーは、新薬価制度に対応して、仕切価格の水準や割戻金・販売報奨金の支払基準を変更しました。そのこと自体や当社グループの支払基準の達成度合によっては売上総利益、引いては当社グループの経営成績に影響を与えることがあります。

(4) 納入価格に関するリスク

当社グループは販売において常に適正価格での納入を維持する努力をしておりますが、競合他社の地域戦略などを要因とした過度の価格競争が発生する可能性があります。

(5) 貸倒引当金によるリスク

貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を貸倒引当金に計上しております。そのため、今後のお得意様の財務状態の悪化等により、回収可能性が見込まれない場合は追加引当が必要となります。

(6) 投資有価証券所有によるリスク

当社グループは取引関係維持等のために取引メーカーの株式等を所有しております。時価のある株式については、個別銘柄毎に当連結会計年度末の市場価格と取得原価とを比較し、下落率が50%以上の銘柄については全て減損処理を行い、過去2年間にわたり下落率が30%以上50%未満の範囲で推移した銘柄、または、下落率が30%以上50%未満で株式の発行会社が債務超過の状態である銘柄については、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(7) 減損会計によるリスク

固定資産の減損会計は、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として当期の損失とすることとされています。このため、当社グループが減損会計適用の検討対象となり、市場環境の悪化等の要因により当社の事業所において営業活動から生ずる損益またはキャッシュ・フローが継続してマイナスになった場合や、保有する固定資産の市場価格が著しく下落した場合など、固定資産の減損会計の適用により特別損失の計上が必要となります。

(8) 情報漏洩に関するリスク

当社グループでは、個人情報の保護についての基本方針、情報セキュリティポリシー及び関連諸規程を制定するとともに、従業員教育を徹底し、保有する顧客情報は厳正な保護・管理に努めております。しかしながら、予期せぬ事態により情報の流出が発生した場合には、社会的信用の失墜や損害賠償責任、取引停止処分が発生し、業績に影響を及ぼす場合があります。

なお、上記の記載事項は、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。当社グループの事業等に関するリスクを全て網羅するものではないことにご留意ください。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を表示しております。この連結財務諸表の作成に際し、連結会計年度末における財政状態、並びに連結会計年度における経営成績の金額に影響を与える事象については見積りを行う場合があります。見積りについては、過去の実績や状況及び様々な要因に基づき判断を行い、合理的と考えられる方法によって見積りを行っております。将来における実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、見積りと異なる場合があります。

主な事象は、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を貸倒引当金に計上しております。投資有価証券については、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。固定資産については、回収可能価額まで減損し減損処理を行っております。貸借対照表に計上されている繰延税金資産については、将来の課税所得を見積もり、回収可能と判断しております。賞与引当金は、支給見込額に基づき計上しております。退職給付費用及び退職給付債務は、前提条件となる割引率及び期待運用収益率を国債の市場利回り等の経済状況を勘案して決定しております。

(2) 当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末から25,049百万円増加し、304,422百万円となりました。内訳は、流動資産202,355百万円、固定資産102,066百万円であります。

流動資産の主な内訳は、現金及び預金35,368百万円、受取手形及び売掛金123,659百万円、たな卸資産27,811百万円及び未収入金14,159百万円であります。なお前連結会計年度末に比べ、受取手形及び売掛金が2,702百万円減少したものの、現金及び預金が5,105百万円増加したこと等により、流動資産が1,758百万円増加しております。

固定資産の内訳は、有形固定資産36,987百万円、無形固定資産7,167百万円、投資その他の資産57,912百万円であります。なお前連結会計年度末に比べ、投資有価証券が14,095百万円、建物及び構築物が5,252百万円増加したこと等により、固定資産が23,290百万円増加しております。

負債は、前連結会計年度末から14,407百万円増加し、226,214百万円となりました。内訳は、流動負債190,260百万円、固定負債35,953百万円であります。

流動負債の主な内訳は、支払手形及び買掛金181,483百万円、賞与引当金1,804百万円であります。なお前連結会計年度末に比べ、支払手形及び買掛金が813百万円増加したこと等により、流動負債が1,357百万円増加しております。

固定負債の主な内訳は、転換社債型新株予約権付社債10,045百万円、繰延税金負債9,602百万円、退職給付に係る負債7,703百万円及び長期借入金3,280百万円であります。なお前連結会計年度末に比べ、ユーロ円貨建転換社債型新株予約権付社債の発行により転換社債型新株予約権付社債が10,045百万円増加したこと等により、固定負債が13,049百万円増加しております。

純資産は、前連結会計年度末から10,641百万円増加し、78,208百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金8,362百万円の増加及び当期純利益4,527百万円の計上等によるものであります。

(3) 当連結会計年度の経営成績の分析

当社グループの連結売上高は、主たる事業である医薬品卸売業界におきましては、国の医療費抑制策により平成26年4月の薬価改定で2.65%（消費税増税分を除くと5.64%）の薬価基準の引下げが行なわれました。また、医薬品流通におきましても平成26年4月の消費税増税前には駆け込み需要が発生し、当連結会計年度はその反動や増税後の受診抑制傾向、急速なカテゴリーチェンジ、特に長期収載品からジェネリック品への移行の影響等により医薬品市場はやや縮小いたしました。このような中、新薬創出・適応外薬解消等促進加算制度の対象品や新製品（先発品）の販売に注力し、販売額の確保に努めてまいりましたが、前述のような市場の落ち込みをカバーすることができず2.9%減収の548,012百万円となりました。

売上総利益は、一部のメーカーでの共同仕入による利益の獲得に努めるとともに、カテゴリーチェンジへの的確な対応として単品単価による納入価交渉や「V Kマーケティング」による不採算先の取引改善交渉等により売上高比率では前連結会計年度よりも0.2ポイント上回り7.6%となりました。なお、金額では前連結会計年度より154百万円少ない141,554百万円となっております。

販売費及び一般管理費は、業務の効率化や人員の見直し等を図り削減に務めました。子会社の増加及びのれんの償却233百万円により前連結会計年度に対して金額では1,231百万円の増加となり、売上高比率では0.4ポイント上回り7.3%となりました。

この結果、連結営業利益は前連結会計年度に対して43.3%減益の1,812百万円となりました。

営業外収益及び営業外費用については、営業外収益では持分法による投資利益の増加等により、前連結会計年度より1,013百万円多い4,515百万円となりました。営業外費用では、賃貸費用の増加等により前連結会計年度より132百万円多い1202百万円となりました。

この結果、連結経常利益は前連結会計年度に対して7.6%減益の6,125百万円となりました。

特別利益及び特別損失については、主なものとして特別利益で投資有価証券売却益506百万円、特別損失では減損損失579百万円を計上いたしました。

以上の結果、連結当期純利益は前連結会計年度に対して6.9%増益の4,527百万円となりました。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの主要な取り扱い商品である医療用医薬品は、薬価基準が販売価格の上限として機能しており、この薬価基準の決定には我が国の社会保障制度とその財政状況が大きく影響を与えます。

(5) 戦略的現状と見通し

今後の見通しにつきましては、医薬品卸売業界におきましては、政府の医療費抑制策は継続するものの、当期のような急速なカテゴリーチェンジは収束し、新薬販売の増加や高齢者の人口増による需要増加により市場は緩やかに拡大するものと思われれます。

そのような状況の中、当社グループでは、第2次中期経営計画の最終年度を迎えます。新たなヘルスケア・コーディネート事業を展開し、収益の向上に努めてまいります。主たる事業である医薬品卸売事業におきましても、商品単位毎の適正価格での販売をより一層強化すると共に、「V Kマーケティング」による不採算取引の改善、グループ全体での業務効率化の推進や適正人員の配置などによるコスト削減等により営業利益の確保に取り組んでまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、転換社債型新株予約権付社債の発行による収入が主要因となり、前連結会計年度末に比べ2,192百万円増加し、当連結会計年度末の現金及び現金同等物の残高は27,398百万円となりました。また、現金及び現金同等物以外に、流動資産に含まれる預入期間が3カ月を超える定期預金7,970百万円があります。

キャッシュ・フローの状況につきましては、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当連結会計年度は、平成25年4月からスタート致しました第2次中期経営計画（以下「中期計画」といいます。）の最終年となっております。これまでの2カ年において、当社グループの中期ビジョンに掲げる「医薬品卸売事業において、顧客とWin-Winの関係を構築すること」、「地域包括ケアシステムに関連した事業に投資し、地域のヘルスケアインフラの構築に貢献する」の実現に向けて積極的な投資等を行って参りました。今年度は従前より掲げております次の3つの基本方針のもと、主な実践課題に取り組むことにより、企業価値の向上を図って参ります。

（基本方針）

地域や顧客との一層強固な関係づくりを目指したグループ経営戦略の展開
ホールディングスのガバナンス強化とシナジーの追求
組織及びシステムの統合によるコスト削減

（主な実践課題）

グループ全体戦略

- ・地域の医薬品卸売企業として、当社グループでは、国の医療施策である「医療提供体制の整備」や「地域包括ケアシステム」に対応した「地域のヘルスケア・コーディネーター」を目指し、地域の病診連携や医療介護連携の重要な担い手になります。
- ・医薬品卸売事業の再編によるプレゼンスの向上とシナジーの追及を行います。
- ・本社管理機能の統合によるスリム化を図ります。
- ・コーポレートガバナンスの強化を図ります。
- ・グループ企業群を再編し、より効率的でダイナミックなグループ運営を行います。

医薬品卸売事業戦略

- ・営業エリアにおける安定的なシェアを維持する為、地域連携による顧客深耕等の営業展開を図るとともに、市場の拡大が望める関東エリアでの営業力強化を図ります。
- ・物流・事務の効率化によるローコスト化の推進を図ります。

その他事業戦略

- ・当社グループの顧客基盤を活用した新たな収益機会の創出として、これまで一部地域にてサービス提供を行って参りました「介護レンタル事業」並びに「洗浄サービス事業」の当社グループ営業エリアでの事業拡大を図ります。

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成27年3月31日）現在において判断したものであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）の当連結会計年度における設備投資の総額は6,207百万円（無形固定資産935百万円を含む）であり、セグメントの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1)医薬品卸売事業

当連結会計年度における設備投資の総額は5,834百万円（無形固定資産927百万円を含む）であり、その主なものは次のとおりであります。

(提出会社)

平成27年9月完了予定のVKHD次期統合システム（スピード経営とプレゼンスの確保及びコストの削減を目的とした㈱バイタルネットと㈱ケーエスケーの統合システム）への投資580百万円（無形固定資産）を行っております。

(連結子会社：㈱バイタルネット)

災害時でも安定供給を継続できるよう防災の充実を図った宮城物流センターへ2,941百万円を投資し、平成26年11月に完成し、平成27年1月から稼動しております。

(2)その他事業

当連結会計年度における設備投資の総額は372百万円（無形固定資産7百万円を含む）であり、その主なものは㈱バイタルエージェンシーの平成26年6月に完了したベルハート西公園（サービス付き高齢者専用住宅）への投資216百万円であります。

なお、当連結会計年度において営業成績に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却及び撤去等はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）における主要な設備は、以下のとおりであります。

提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千 ㎡)	リース 資産	その他		合計
本社事務所 (東京都中央区)	医薬品卸売 事業	本社機能	4	47		471	14	537	5 [1]

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は工具器具及び備品であります。なお金額には消費税等は含んでおりません。

2 建物を賃借しており、年間賃借料は28百万円であります。

3 従業員数の[]は、平均臨時雇用者数を外書しております。

国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員 数 (人)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千 ㎡)	リース 資産	その他		合計
株)バイタルネット	本社(仙台市青葉区)	医薬品卸売事業	本社機能	73	0	14 (0) [0]		180	268	57 [1]
	八乙女ビル(仙台市泉区)	同上	本社機能及び営業店設備	400	9	595 (6)		2	1,007	80 [11]
	宮城物流センター(宮城県大和町)	同上	本社機能及び物流設備	4,454	22	191 (48)	903	27	5,599	84 [22]
	名取物流センター(宮城県名取市)	同上	本社機能、物流設備及び営業店設備	356		395 (44) [2]	65	22	840	62 [73]
	山形物流センター(山形県山形市)	同上	物流設備及び営業店設備	239	3	527 (19)		0	770	62 [35]
	新潟物流センター(新潟市西区)	同上	同上	424	1	1,582 (18)	12	8	2,029	155 [99]
	新潟紫竹山ビル(新潟市中央区)	その他事業	本社機能及び営業店設備	62		149 (4)			211	
	青森支店(青森県青森市)他青森地区3営業店	医薬品卸売事業	営業店設備	648		593 (17)		11	1,252	82 [38]
	盛岡支店(岩手県矢巾町)他岩手地区7営業店	同上	同上	428		531 (27) [5]		5	966	141 [42]
	秋田支店(秋田県秋田市)他秋田地区5営業店	同上	同上	549		679 (25)		9	1,238	124 [27]
仙台中央支店(仙台市若林区)他宮城地区3営業店	同上	同上	510		499 (12) [3]		4	1,014	114 [25]	

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員 数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千 ㎡)	リース 資産	その他	合計	
(株)バイタルネット	米沢支店(山形県米沢市)他山形地区4営業店	医薬品卸売事業	営業店設備	639		284 (14)		3	928	66 [31]
	郡山支店(福島県郡山市)他福島地区5営業店	同上	同上	387	0	708 (20) [0]		260	1,356	135 [39]
	新発田支店(新潟県新発田市)他新潟地区2営業店	同上	同上	217	0	433 (15)		1	652	87 [11]
	宇都宮支店(栃木県宇都宮市)他関東地区3営業店	同上	同上	95		85 (3)		2	183	81 [48]
(株)ケーエスケー	本社(大阪市中央区)	同上	本社機能	17		[2]	88	19	124	134 [8]
	大阪物流センター(堺市美原区)	同上	物流設備	253	37	[7]	89	14	395	27 [101]
	神戸物流センター(神戸市西区)	同上	同上	289	49	538 (8)	24	9	912	40 [110]
	京都物流センター(京都府宇治市)	同上	同上	928	44	313 (4)	313	18	1,617	13 [95]
	大阪第一支店(大阪市中央区)他大阪地区9営業店	同上	営業店設備	699	0	2,143 (11) [10]	5	17	2,865	403 [110]
	神戸支店(神戸市灘区)他兵庫地区11営業店	同上	同上	1,404		2,913 (32)	5	30	4,354	388 [53]
	京都支店(京都市中京区)他京都・滋賀地区6営業店	同上	同上	850		612 (5) [9]	2	17	1,483	262 [37]
	奈良支店(奈良県天理市)他奈良・和歌山地区5営業店	同上	同上	319		445 (7) [1]		15	780	109 [26]
四季の里とよおか(兵庫県豊岡市)	同上	賃貸設備	343	1	80 (1)		18	444		
(株)バイタルエージェンシー	ベルサンピアみやぎ泉(宮城県大和町)	その他事業	宿泊・スポーツ設備	213	3	395 (109)		7	620	19 [14]
	ベルハート西公園(仙台市青葉区)	同上	賃貸設備	480		92 (0)		12	585	

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は工具器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。なお金額には消費税等は含んでおりません。
- 2 土地及び建物の一部を賃借しており、賃借している土地の面積については[]で外書しております。
- 3 帳簿価額の「建物及び構築物」には、連結会社以外への貸与中の建物が(株)バイタルネットの名取物流センターに27百万円、宮城物流センターに6百万円及び盛岡支店に0百万円含まれております。
- 4 従業員数の[]は、平均臨時雇用者数を外書しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手及び完了予定		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社	VKHD次期統 合システム	医薬品卸 売業	基幹シス テム等	3,506	1,847	自己資金及び転 換社債型新株予 約権付社債	平成25年 2月	平成27年 9月	(注) 2
(株)バイタ ルネット	いわき支店 (福島県い わき市)	同上	営業店設 備	480	237	同上	平成26年 9月	平成27年 5月	(注) 3

(注) 1 上記金額に消費税等は含んでおりません。

2 前連結会計年度末に計画中でありましたスピード経営とプレゼンスの確保及び統合によるコストの削減を実現できるシステムであります。

3 老朽化対応によるものであり、能力の増減はありません。

(2) 重要な設備の除却等

当連結会計年度末現在における重要な設備の除却等に該当する事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	230,000,000
計	230,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	61,224,796	61,224,796	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	61,224,796	61,224,796		

(2) 【新株予約権等の状況】

当社は、会社法に基づき新株予約権付社債を発行している。

2020年満期ユーロ円貨建転換社債型新株予約権付社債(平成26年9月26日発行)		
	事業年度末現在 (平成27年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年5月31日)
新株予約権の数(個)	1,000	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数		同左
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	8,960,573(注)1	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	一株当たり1,116(注)2	同左
新株予約権の行使期間	(注)3	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1,116 資本組入額 558(注)4	同左
新株予約権の行使の条件	各本新株予約権の一部行使はできません。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権は、転換社債型新株予約権付社債に付されたものであり、本社債からの分離譲渡はできません。	同左
代用払込みに関する事項	新株予約権の行使に際して出資される財産の内容は、当該本新株予約権に係る本社債を出資するものとし、当該本社債の価格はその額面金額と同額としております。	同左
組織再編行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左
新株予約権付社債の残高(百万円)	10,045	10,044

(注) 1. 本新株予約権の目的である株式の種類及び内容は当社普通株式(単元株式数100株)とし、その行使により当社が当社普通株式を交付する数は、行使請求に係る本社債の額面金額の総額を転換価額で除した数としております。但し、行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行いません。

2. (1) 各本新株予約権の行使に際しては、当該本新株予約権に係る本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、その額面金額と同額とします。

- (2) 本新株予約権の行使時の払込金額(以下、転換価額という。)は1,116円とします。
- (3) 転換価額は、本新株予約権付社債の発行後、当社が当社普通株式の時価を下回る払込金額で当社普通株式を発行し又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合には、下記の算式により調整します。なお、下記の算式において、「既発行株式数」は当社の発行済普通株式(当社が保有するものを除く。)の総数を指しております。

$$\text{調整後転換価額} = \text{調整前転換価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{発行又は処分株式数} \times 1 \text{株当たりの払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{発行又は処分株式数}}$$

また、転換価額は、当社普通株式の分割又は併合、当社普通株式の時価を下回る価格をもって当社普通株式の交付を請求できる新株予約権(新株予約権付社債に付されるものを含む。)の発行が行われる場合、その他一定の事由が生じた場合にも適宜調整されます。

3. 新株予約権を行使することができる期間は、2014年10月10日から2020年9月14日まで(行使請求受付場所現地時間)としております。但し、当社の選択による繰上償還の場合は、償還日の東京における3営業日前の日まで(但し、繰上償還を受けないことが選択された本社債に係る本新株予約権を除く。)、本新株予約権付社債権者の選択による繰上償還がなされる場合は、償還通知書が財務代理人又はその他の代理人に預託された時まで、本社債の買入消却がなされる場合は、本社債が消却される時まで、また本社債の期限の利益喪失の場合は、期限の利益喪失時までとしております。上記いずれの場合も、2020年9月14日(行使請求受付場所現地時間)より後に本新株予約権を行使することはできないこととしております。
- 上記にかかわらず、当社の組織再編等を行うために必要であると当社が合理的に判断した場合には、組織再編等の効力発生日の翌日から14日以内に終了する30日以内の当社が指定する期間中、本新株予約権を行使することはできないこととしております。
- また、本新株予約権の行使の効力が発生する日(又はかかる日が東京における営業日でない場合、東京における翌営業日)が、当社の定める基準日又は社債、株式等の振替に関する法律第151条第1項に関連して株主を確定するために定められたその他の日(以下「株主確定日」と総称する。)の東京における2営業日前の日(又は当該株主確定日が東京における営業日でない場合には、東京における3営業日前の日)から当該株主確定日(又は当該株主確定日が東京における営業日でない場合、東京における翌営業日)までの期間に当たる場合、本新株予約権を行使することはできないこととしております。但し、社債、株式等の振替に関する法律に基づく振替制度を通じた新株予約権の行使に係る株式の交付に関する法令又は慣行が変更された場合、当社は、本段落による本新株予約権を行使することができる期間の制限を、当該変更を反映するために修正することができることとしております。
4. 本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とします。
5. (1) 組織再編等が生じた場合、当社は、承継会社等(以下に定義する。)をして、本新株予約権付社債の要項に従って、本新株予約権付社債の主債務者としての地位を承継させ、かつ、本新株予約権に代わる新たな新株予約権を交付させるよう最善の努力をするものとしております。但し、かかる承継及び交付については、()その時点で適用のある法律上実行可能であり、()そのための仕組みが既に構築されているか又は構築可能であり、かつ、()当社又は承継会社等が、当該組織再編等の全体から見て不合理な(当社がこれを判断する。)費用(租税を含む。)を負担せずに、それを実行することが可能であることを前提条件とします。かかる場合、当社は、また、承継会社等が当該組織再編等の効力発生日において日本の上場会社であるよう最善の努力をするものとしております。本(1)記載の当社の努力義務は、当社が財務代理人に対して、承継会社等が、当該組織再編等の効力発生日において、理由の如何を問わず、日本の上場会社であることを当社は予想していない旨の証明書を交付する場合には、適用されません。「承継会社等」とは、組織再編等における相手方であって、本新株予約権付社債又は(あるいはその両方)本新株予約権に係る当社の義務を引き受ける会社とします。
- (2) 上記(1)の定めに従って交付される承継会社等の新株予約権の内容は下記のとおりとしております。
- (a) 新株予約権の数
当該組織再編等の効力発生日の直前において残存する本新株予約権付社債に係る本新株予約権の数と同一の数としております。
- (b) 新株予約権の目的である株式の種類
承継会社等の普通株式としております。
- (c) 新株予約権の目的である株式の数
承継会社等の新株予約権の行使により交付される承継会社等の普通株式の数は、承継会社等が、当該組織再編等の条件等を勘案のうえ、本新株予約権付社債の要項を参照して決定するほか、下記に従います。なお、転換価額は上記2と同様の調整に服することとなっております。
- イ 合併、株式交換又は株式移転の場合には、当該組織再編等の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に得られる数の当社普通株式の保有者が当該組織再編等において受領する承継会社等の

- 普通株式の数を、当該組織再編等の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに受領できるように、転換価額を定めます。当該組織再編等に際して承継会社等の普通株式以外の証券又はその他の財産が交付されるときは、当該証券又は財産の価値を承継会社等の普通株式の時価で除して得られる数に等しい承継会社等の普通株式の数を併せて受領できるようにしております。
- 合併、株式交換及び株式移転を除く組織再編等の場合には、当該組織再編等の効力発生日の直前に本新株予約権を行使した場合に本新株予約権付社債権者が得られるのと同等の経済的利益を、当該組織再編等の効力発生日の直後に承継会社等の新株予約権を行使したときに受領できるように、転換価額を定めます。
- (d) 新株予約権の行使に際して出資される財産の内容及びその価額
承継会社等の新株予約権の行使に際しては、承継された本社債を出資するものとし、当該本社債の価額は、承継された本社債の額面金額と同額とします。
- (e) 新株予約権を行使することができる期間
当該組織再編等の効力発生日（場合によりその14日後以内の日）から、上記3に定める本新株予約権の行使期間の満了日までとしております。
- (f) その他の新株予約権の行使の条件
承継会社等の各新株予約権の一部行使はできないものとしております。
- (g) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金
承継会社等の新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の定めるところに従って算定された資本金等増加限度額に0.5を乗じた金額とし、計算の結果1円未満の端数を生じる場合はその端数を切り上げた額とします。増加する資本準備金の額は、資本金等増加限度額より増加する資本金の額を減じた額とします。
- (h) 組織再編等が生じた場合
承継会社等について組織再編等が生じた場合にも、本新株予約権付社債と同様の取り扱いを行います。
- (i) その他
承継会社等の新株予約権の行使により生じる1株未満の端数は切り捨て、現金による調整は行いません。承継会社等の新株予約権は承継された本社債と分離して譲渡できないこととしております。
- (3) 当社は、上記(1)の定めに従い本社債に基づく当社の義務を承継会社等に引き受け又は承継させる場合、本新株予約権付社債の要項に定める一定の場合には保証を付すほか、本新株予約権付社債の要項に従うこととしております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年4月1日	61,224	61,224	5,000	5,000	1,250	1,250

(注) 発行済株式総数、資本金及び資本準備金の増加は、(株)バイタルネット及び(株)ケーエスケーの株式移転により共同持株会社として設立されたことによります。

(6) 【所有者別状況】

平成27年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		39	20	153	121	2	3,471	3,806	
所有株式数(単元)		67,028	2,117	229,235	37,903	2	275,369	611,654	59,396
所有株式数の割合(%)		10.96	0.35	37.47	6.20	0.00	45.02	100.00	

(注) 1 自己株式5,310,183株は「個人その他」に53,101単元、「単元未満株式の状況」に83株含まれております。

2 「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ5単元及び55株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成27年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(有)鈴彦	仙台市青葉区錦町2丁目4番60号	4,892	7.99
田辺三菱製薬(株)	大阪市中央区北浜2丁目6番18号	2,655	4.34
みずほ信託銀行(株)退職給付信託口	東京都中央区晴海1丁目8番12号	2,214	3.62
ケーエスケー従業員持株会	大阪市中央区本町橋1番20号	1,731	2.83
第一三共(株)	東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号	1,477	2.41
大日本住友製薬(株)	大阪市中央区道修町2丁目6番8号	1,449	2.37
鈴木 賢	仙台市青葉区	1,225	2.00
(有)クエコ	盛岡市住吉町4番4号	1,187	1.94
武田薬品工業(株)	大阪市中央区道修町4丁目1番1号	1,163	1.90
鈴木 宏一郎	新潟市中央区	1,020	1.68
計		19,018	31.06

(注) 1 当社は自己株式を5,310千株保有しておりますが、上記の大株主の状況からは除いております。なお、発行済株式総数に対する所有株式数の割合は8.67%となっております。

2 みずほ信託銀行株式会社退職給付信託口の所有株式数は、第一三共株式会社保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであります。

3 前事業年度末現在主要株主であった鈴木淳氏は平成26年5月に逝去され、所有株式は鈴木宏一郎氏へと相続されております。それに伴い、当事業年度末においては鈴木宏一郎氏が新たに主要株主となりました。

4 野村證券株式会社、NOMURA INTERNATIONAL PLC、NOMURA SECURITIES INTERNATIONAL, Inc.及び野村アセットマネジメント株式会社の4社連名により平成26年12月22日付で大量保有報告書の変更報告書が提出されておりますが、当社として当事業年度末時点における実質所有状況の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、当該大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者 野村證券株式会社他3社

報告義務発生日 平成26年12月15日

保有株式等の数(保有潜在株式の数を含む) 6,624千株

株式等保有割合 9.07%

- 5 みずほ証券株式会社、みずほ信託銀行株式会社、みずほインターナショナル及び米国みずほ証券の4社連名により平成26年12月22日付で大量保有報告書の変更報告書が提出されておりますが、当社として当事業年度末時点における実質所有状況の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、当該大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者 みずほ証券株式会社他3社

報告義務発生日 平成26年12月15日

保有株式等の数(保有潜在株式の数を含む) 4,371千株

株式等保有割合 6.73 %

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,310,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 55,855,300	558,553	
単元未満株式	普通株式 59,396		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	61,224,796		
総株主の議決権		558,553	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権5個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」の株式数の欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が55株、当社保有の自己株式が83株含まれています。

【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)バイタルケーエスケー・ ホールディングス	東京都世田谷区 弦巻一丁目1番12号	5,310,100		5,310,100	8.67
計		5,310,100		5,310,100	8.67

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価格の総額(円)
取締役会(平成26年9月10日)での決議状況 (取得期間平成26年9月11日)	3,225,800	3,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	2,229,300	2,073,249,000
残存決議株式の総数及び価格の総額	996,500	926,751,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	30.9	30.9
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	30.9	30.9

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	587	498,788
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(単元未満株式の売渡請求による売渡)				
保有自己株式数	5,310,183		5,310,183	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成27年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置づけ、継続的かつ安定的な配当を行なうとともに、長期的な視点による企業価値の最大化のため内部留保の充実に努めてまいります。また、内部留保金は企業競争力強化による利益拡大を目指して最も効果的な投資に充当してまいります。

当期の配当金は、既に実施いたしました中間配当金の1株につき8円、期末配当金の1株につき10円、年間で1株につき18円とすることに決定しました。

次期の配当におきましても、当期と同様、中間配当金は1株につき8円、期末配当金は1株につき10円とし、年間で1株につき18円とする予定であります。

なお、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

第6期に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年11月7日 取締役会決議	447	8.00
平成27年5月14日 取締役会決議	559	10.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
決算年月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
最高(円)	760	730	928	956	999
最低(円)	450	524	624	628	689

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
最高(円)	988	963	928	917	986	980
最低(円)	856	840	845	865	891	911

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状況】

男性18名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		鈴木 賢	昭和23年6月11日生	昭和49年2月 ㈱鈴彦〔現㈱バイタルネット〕入社 昭和55年5月 同社取締役 昭和58年4月 サンエス㈱〔現㈱バイタルネット〕 常務取締役営業部長 昭和62年10月 同社専務取締役 昭和63年6月 同社代表取締役専務 平成2年4月 同社代表取締役副社長 平成6年4月 同社代表取締役社長 平成11年6月 ㈱ほくやく取締役 平成12年6月 ㈱アステム取締役 平成17年6月 ㈱バイタルネット代表取締役兼社長 執行役員 平成18年9月 ㈱ほくやく・竹山ホールディングス 取締役〔現任〕 平成20年10月 ㈱フォレストホールディングス取締 役〔現任〕 平成21年4月 当社代表取締役社長 平成21年6月 ㈱ケーエスケー取締役〔現任〕 平成27年6月 ㈱バイタルネット代表取締役会長 〔現任〕 当社代表取締役会長〔現任〕	(注)3	1,225
取締役	相談役	深田 一夫	昭和22年1月19日生	昭和40年3月 大協薬劑㈱入社 平成4年1月 ㈱シンエー総務部長兼人事部長 平成8年6月 同社取締役 平成11年10月 ㈱ケーエスケー取締役社長室長兼関 連事業部長 平成14年1月 同社代表取締役社長 平成21年4月 当社代表取締役会長 平成21年6月 ㈱バイタルネット取締役〔現任〕 平成26年6月 ㈱ケーエスケー代表取締役会長 平成27年6月 同社相談役〔現任〕 当社取締役〔現任〕	(注)3	50
代表取締役 社長		村井 泰介	昭和29年4月1日生	昭和51年4月 エーザイ㈱入社 昭和62年4月 サンエス㈱〔現㈱バイタルネット〕 入社 平成元年10月 同社経営企画室長 平成2年6月 同社取締役 平成6年6月 同社常務取締役 平成8年4月 同社営業本部長 平成9年4月 同社専務取締役 平成18年6月 ㈱バイタルネット取締役副社長 平成18年6月 同社社長補佐兼渉外担当兼IR担当 平成21年4月 当社取締役 平成26年6月 ㈱バイタルネット代表取締役副社長 平成27年6月 同社代表取締役〔現任〕 当社代表取締役社長〔現任〕	(注)3	111
代表取締役 副社長		服部 保	昭和26年4月26日生	昭和50年4月 ㈱太陽神戸銀行入社 平成13年4月 ㈱三井住友銀行岡山法人営業部長 平成15年5月 ㈱ケーエスケーへ出向 平成15年6月 同社執行役員 同社経理部長 平成16年3月 同社入社 平成16年6月 同社取締役 平成21年4月 当社取締役 平成21年7月 ㈱ケーエスケー管理本部副本部長 (経理担当) 平成24年7月 同社管理本部長(経営企画担当) 平成26年6月 同社代表取締役社長〔現任〕 平成27年6月 ㈱バイタルネット取締役〔現任〕 当社代表取締役副社長〔現任〕	(注)3	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	営業担当	千原 宏之	昭和21年11月21日生	昭和45年1月 平成10年2月 平成10年6月 平成11年10月 平成13年6月 平成14年6月 平成15年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成22年6月 平成22年7月 平成23年7月 平成24年7月 平成27年6月	㈱大協入社 ㈱シンエー 営業本部企画推進部長兼 兵庫営業部営業推進部長 同社取締役 ㈱ケーエスケー取締役 同社企画推進部長 同社常務取締役 同社取締役 同社医薬営業副本部長 同社医薬営業本部長 当社取締役〔現任〕 ㈱ケーエスケー常務取締役 同社営業統括 同社社長補佐・営業担当 同社取締役副社長渉外担当 同社相談役〔現任〕	(注)3	24
取締役		一條 武	昭和34年10月16日生	昭和60年4月 平成9年4月 平成14年10月 平成18年7月 平成18年7月 平成21年7月 平成22年6月 平成24年6月 平成27年6月	サンエス㈱〔現㈱バイタルネット〕 入社 同社福島支店長 同社山形営業部長 同社執行役員 同社宮城営業部長 同社営業本部長 同社取締役 当社取締役〔現任〕 ㈱バイタルネット代表取締役社長 〔現任〕	(注)3	6
取締役		一條 宏	昭和28年8月1日生	昭和53年4月 昭和56年11月 平成9年4月 平成9年6月 平成11年6月 平成17年6月 平成18年6月 平成22年4月 平成22年6月 平成22年6月 平成27年6月	㈱三星堂入社 ㈱鈴彦〔現㈱バイタルネット〕入社 サンエス㈱〔現㈱バイタルネット〕 営業企画室長 同社取締役 同社営業企画室長兼薬事・カスタ マーサポート担当 同社執行役員兼薬事管理担当兼カス タマーセンター担当兼介護部門担当 ㈱医療経営研究所代表取締役社長 〔現任〕 ㈱V Kシェアードサービス代表取締 役社長〔現任〕 ㈱バイタルネット取締役 当社取締役〔現任〕 ㈱バイタルネット相談役〔現任〕	(注)3	81
取締役	経営企画部長 兼総務部長	津越 正朗	昭和34年3月16日生	昭和57年4月 平成22年10月 平成24年7月 平成24年7月 平成25年4月 平成25年7月 平成26年6月 平成27年6月	武田薬品工業㈱入社 同社医薬営業本部中日本特約店部長 ㈱バイタルネット出向 同社執行役員〔現任〕 同社情報統括部長〔現任〕 当社経営企画部長兼総務部長〔現 任〕 当社取締役〔現任〕 ㈱バイタルネット取締役兼経営企画 担当〔現任〕	(注)3	0
取締役	監査部長	余田 武則	昭和31年7月7日生	昭和50年4月 平成12年10月 平成20年6月 平成26年6月 平成26年7月 平成27年6月	㈱大協入社 ㈱ケーエスケー加古川支店長 同社執行役員京滋営業部長 同社取締役〔現任〕 同社取締役管理本部長〔現任〕 当社取締役〔現任〕	(注)3	15

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	営業・仕入 部長	八巻 春男	昭和31年2月8日生	昭和56年4月 平成14年10月 平成17年7月 平成21年6月 平成23年7月 平成24年7月 平成25年7月 平成27年6月	(株)鈴彦〔現(株)バイタルネット〕入社 同社病院営業部長 同社執行役員 同社取締役〔現任〕 同社関東営業担当 同社東京支店長 同社執行役員東京支社長兼関東営業 担当〔現任〕 当社取締役〔現任〕	(注)3	14
取締役		北中 浩	昭和31年3月31日生	昭和53年3月 平成11年4月 平成12年10月 平成21年1月 平成21年6月 平成25年7月 平成27年6月	兵東薬販(株)入社 (株)シンエー加古川支店長 (株)ケーエスケー営業推進部長 同社兵庫第二営業部長 同社執行役員 同社大阪第一営業部長 同社取締役営業本部長〔現任〕 当社取締役〔現任〕	(注)3	6
取締役		松井 秀太郎	昭和32年9月29日生	昭和60年5月 平成4年7月 平成10年10月 平成17年6月 平成26年1月 平成27年6月	松井薬品(株)〔現(株)ファイネス〕入社 同社代表取締役専務 (株)フレット〔現(株)ファイネス〕代表 取締役社長 東邦薬品(株)取締役 (株)ファイネス代表取締役社長〔現 任〕 当社取締役〔現任〕	(注)3	-
取締役		眞鍋 雅昭	昭和17年11月27日生	昭和40年4月 昭和47年6月 昭和48年10月 昭和52年4月 昭和59年9月 昭和62年9月 平成3年4月 平成11年6月 平成15年6月 平成18年9月 平成19年7月 平成20年10月 平成21年4月 平成27年6月	(株)一の眞鍋五郎薬局〔現(株)ほくや く〕入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社代表取締役専務 同社代表取締役副社長 同社代表取締役社長 (株)バイタルネット取締役 (株)ほくやく代表取締役社長執行役員 〔現任〕 (株)ほくやく・竹山ホールディングス 代表取締役社長 同社代表取締役社長執行役員 (株)フォレストホールディングス取締 役〔現任〕 当社取締役〔現任〕 (株)ほくやく・竹山ホールディングス 代表取締役社長〔現任〕	(注)3	32
取締役		吉村 恭彰	昭和28年10月17日生	昭和55年7月 昭和61年6月 昭和62年6月 平成元年6月 平成3年6月 平成6年4月 平成10年4月 平成12年6月 平成18年9月 平成20年10月 平成21年4月	吉村薬品(株)〔現(株)アステム〕入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社代表取締役副社長 同社代表取締役社長〔現任〕 (株)アステムヘルスケア(現(株)リード ヘルスケア)代表取締役会長〔現 任〕 (株)バイタルネット取締役 (株)ほくやく・竹山ホールディングス 取締役〔現任〕 (株)フォレストホールディングス代表 取締役社長〔現任〕 当社取締役〔現任〕	(注)3	32

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役(常勤)		大國 順之	昭和27年10月26日生	昭和47年3月 平成4年6月 平成11年10月 平成13年7月 平成16年4月 平成20年4月 平成25年7月 平成26年6月 平成27年6月	京葉(株)入社 (株)京進彦根支店長 (株)ケーエスケー社長室担当部長 同社人事部長 同社執行役員 同社内部監査部長 当社監査部長 当社取締役 (株)ケーエスケー監査役〔現任〕 当社常勤監査役〔現任〕	(注)4	7
監査役		斎藤 光裕	昭和28年6月20日生	昭和51年4月 平成9年4月 平成15年6月 平成17年6月 平成21年6月 平成21年7月 平成23年7月 平成24年7月 平成27年6月	(株)鈴彦〔現(株)バイタルネット〕入社 同社総務部長 同社取締役 同社執行役員管理本部長兼人事部長 同社取締役 同社管理本部長兼総務部長兼社長室担当 同社管理本部長兼社長室担当 同社常務執行役員 同社監査役〔現任〕 当社監査役〔現任〕	(注)5	27
監査役		高橋 誠也	昭和38年12月14日生	平成8年4月 平成14年5月 平成21年4月	弁護士登録、勅使河原協同法律事務所入所 狩野・高橋法律事務所〔現みらい法律事務所〕入所〔現任〕 当社監査役〔現任〕	(注)4	-
監査役		西村 陽	昭和24年1月29日生	昭和46年4月 昭和63年5月 平成6年6月 平成6年7月 平成16年6月 平成18年5月 平成21年4月	近畿日本鉄道(株)入社 等松青木監査法人社員 公認会計士西村陽事務所代表〔現任〕 シー・ウィング コンサルティング (株)代表取締役社長 (株)ケーエスケー監査役〔現任〕 シー・ウィング コンサルティング (株)取締役〔現任〕 (株)シーウィン総合研究所代表取締役社長〔現任〕 当社監査役〔現任〕	(注)4	-
計							1,640

- (注) 1 眞鍋雅昭及び吉村恭彰は、社外取締役であります。
- 2 監査役高橋誠也及び西村陽は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 取締役一條武は、取締役一條宏の弟であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、コーポレート・ガバナンスの強化をステークホルダーとの信頼関係の基本と考え、企業としての使命や広く社会に対して担う責任を踏まえた企業理念を制定して意識向上を図るとともに、監査機能の充実などの実行を通して経営の透明性・健全性の確保、意思決定の迅速化に努めております。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

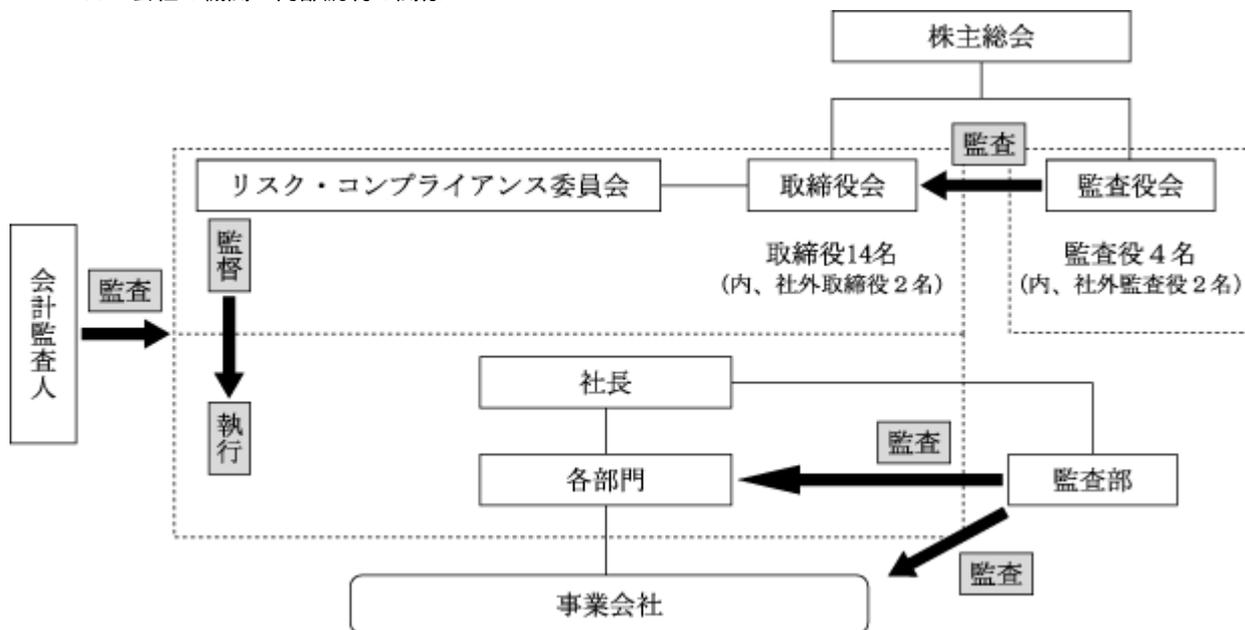
ア．企業統治の体制の概要

- ・当社は会社法上の監査役制度を採用しております
- ・取締役会は、提出日現在14名の取締役で構成され、うち2名は社外取締役です。
- ・監査役会は、提出日現在4名の監査役で構成され、うち2名が社外監査役です。
- ・監査部で内部監査を実施する担当者は、提出日現在13名で構成され、当社グループ全体に対して、内部監査及び内部統制システムの整備と運用状況を定期的に監査を実施しております。
- ・CSR（企業の社会的責任）を担当する取締役を定め、リスク・コンプライアンス管理委員会を設置しております。
- ・当社は、社外取締役及び社外監査役と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の責任額は法令が規定する最低責任限度額であります。

イ．当該体制を採用する理由

当社は、経営の透明性・健全性を確保することが最重要項目であると認識し、これを担保するため社外取締役及び社外監査役を選任し、取締役の職務の遂行を監督、監視する体制としております。

ロ．会社の機関・内部統制の関係



八．会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

- ・ 定例取締役会は毎月1回開催しております。それに加えて随時臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や、経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を監督しております。
- ・ 監査役会は定期的には主として四半期決算の検証を目的として開催し、その他必要に応じて随時開催しております。業務遂行全般にわたって、内部監査部門より報告を受け、年間の監査計画に基づいてグループ全体の業務執行が適正かつ効率的に行なわれているかを検証及び評価しております。
- ・ 法令等の遵守を経営上の最重要課題と位置づけ、「コンプライアンス綱領」を全ての取締役および使用人の行動の規範としております。
- ・ 弁護士と顧問契約を結び、法律に関する適宜・適切なアドバイスを受けてコンプライアンスの充実に努めております。
- ・ 当社は会社法及び会社法施行規則に定める「業務の適正を確保するための体制」について、当社設立日である、平成21年4月1日開催の取締役会において「内部統制システムの基本方針」を決議し、この方針に基づいて内部統制システムを構築しております。

二．リスク管理体制の整備の状況

- ・ 経営上のリスク発生の防止並びに経営上のリスクが発生した場合に直ちに適切な対応を行うことができる体制を確立するために「リスク管理規程」を制定し、リスク・コンプライアンス委員会を設置し、リスク管理及びコンプライアンスの徹底を図ります。
- ・ 財務報告及び資産の保全に関するリスク管理のために、販売管理規程、債権管理規程、経理規程等の社内規程の運用の徹底を図っております。
- ・ 担当部門が明らかなその他のリスク管理については、それぞれの部門にてガイドライン等を作成して社内にてその運用の徹底を図ります。
- ・ 部門横断的なリスク及び担当部門が明らかではないリスクが想定された場合は、速やかに担当取締役、担当部門を定めます。

内部監査及び監査役監査

- ・ 監査役会と代表取締役は定期的に会合をもち、会社の対処すべき課題、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見を交換し、相互認識を深めております。
- ・ 監査役は社内の重要会議に出席しております。
- ・ 監査役と監査部は内部監査及び内部統制システムの整備と運用状況に関し、定期的に情報の共有化を図っております。
- ・ 監査役は内部統制システムの整備と運用状況を重点監査項目としております。
- ・ 内部監査の実地状況については、定期的に監査部から監査役(会)に報告しております。
- ・ 監査役は定期的に会計監査人の監査の概要及び結果について、会計監査人から報告及び説明を受けております。
- ・ 社外監査役である西村陽は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当な知見を有しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名であります。また、社外監査役は2名であります。

社外取締役の眞鍋雅昭は、(株)ほくやくの代表取締役であり、同社と当社連結子会社は商品の取引関係がありますが、その取引額は当社連結の当期売上原価、販売費および一般管理費の合計額の0.1%未満であり、僅少です。また、(株)ほくやく・竹山ホールディングスの代表取締役であり、(株)フォレストホールディングスの社外取締役であります。当該会社と当社との間に重要な取引、その他の関係はありません。同じく、社外取締役である吉村恭彰は、(株)リードヘルスケアの代表取締役であり、同社と当社連結子会社は商品の取引関係がありますが、その取引額は当社連結の当期売上原価、販売費および一般管理費の合計額の1%未満であり、僅少です。また、(株)フォレストホールディングス、(株)アステム、(株)ダイコー沖縄の代表取締役であり、(株)ほくやく・竹山ホールディングスの社外取締役であります。当該会社と当社との間に、重要な取引、その他の関係はありません。なお、両氏を社外取締役に選任している理由は、医薬品の卸販売の企業経営者として豊富な経験・実績・見識を有しており、当社の経営に反映させるためであります。

社外監査役の高橋誠也は、当社子会社と顧問弁護士契約を締結しており、その報酬額は年間2百万円であります。同氏は、弁護士として企業法務に精通し、幅広い見識を有していることから、同氏の高い専門性を当社の監査体制に活かしていただくため選任しております。同じく、社外監査役である西村陽は、(株)シーウィン総合研究所の代表取締役であり、同社と当社との間に重要な取引、その他の関係はありません。また、(株)ケーエスケーの社外監査役であり、同社は当社の事業子会社であります。同氏は、公認会計士として財務及び会計に関する相当な知見を有しており、同氏の高い専門性を当社の監査体制に活かしていただくため選任しております。なお、当社は同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。なお、社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係について、特別な利害関係はありません。

当該社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針については、特に定めておりません。

会計監査の状況

a. 業務を執行した公認会計士の氏名及び所属する監査法人名

菅 博雄(有限責任監査法人トーマツ)
井上 嘉之(有限責任監査法人トーマツ)
田村 剛(有限責任監査法人トーマツ)

b. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名
準会員等 10名

役員の報酬等

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員 の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)						
監査役 (社外監査役を除く。)	6	6				1
社外役員	14	14				4

なお、取締役及び監査役の金銭による報酬額は、取締役については年額220百万円以内(うち社外取締役200百万円以内)、監査役については年額25百万円以内(うち社外監査役10百万円以内)とすることが株主総会において承認されております。

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

ニ．使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

株式の保有状況

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額(投資株式計上額)が最も大きい会社(最大保有会社)である(株)ケーエスケーについては以下のとおりです。

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 56銘柄
貸借対照表計上額の合計額 21,594百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
大塚ホールディングス(株)	1,714,000	5,291	取引関係強化のため
エーザイ(株)	495,624	1,991	取引関係強化のため
東邦ホールディングス(株)	750,000	1,638	事業上の関係強化のため
参天製薬(株)	333,558	1,527	取引関係強化のため
小野薬品工業(株)	116,162	1,038	取引関係強化のため
稲畑産業(株)	503,797	529	取引関係強化のため
テルモ(株)	64,350	289	取引関係強化のため
武田薬品工業(株)	58,080	284	取引関係強化のため
第一三共(株)	128,658	223	取引関係強化のため
大日本住友製薬(株)	120,378	197	取引関係強化のため
鳥居薬品(株)	55,956	187	取引関係強化のため
(株)ツムラ	70,554	174	取引関係強化のため
日本新薬(株)	79,279	155	取引関係強化のため
(株)三菱ケミカルホールディングス	333,300	142	取引関係強化のため
日医工(株)	88,350	140	取引関係強化のため
(株)パソナグループ	200,000	121	取引関係強化のため
中外製薬(株)	45,398	119	取引関係強化のため
明治ホールディングス(株)	16,213	105	取引関係強化のため
アルフレッサホールディングス(株)	15,472	104	事業上の関係強化のため
キョーリン製薬ホールディングス(株)	50,000	98	取引関係強化のため
田辺三菱製薬(株)	66,453	95	取引関係強化のため
扶桑薬品工業(株)	182,974	66	取引関係強化のため
住友化学(株)	168,080	64	取引関係強化のため
(株)メディパルホールディングス	40,400	63	事業上の関係強化のため
堺化学工業(株)	181,000	57	取引関係強化のため
キッセイ薬品工業(株)	21,755	55	取引関係強化のため
アステラス製薬(株)	8,911	52	取引関係強化のため
協和発酵キリン(株)	45,111	49	取引関係強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	10,493	46	財務活動円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	60,770	34	財務活動円滑化のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
大塚ホールディングス(株)	1,714,000	6,443	取引関係強化のため
エーザイ(株)	497,356	4,244	取引関係強化のため
参天製薬(株)	333,558	2,918	取引関係強化のため
小野薬品工業(株)	116,162	1,577	取引関係強化のため
東邦ホールディングス(株)	750,000	1,522	事業上の関係強化のため
稲畑産業(株)	503,797	603	取引関係強化のため
テルモ(株)	128,700	407	取引関係強化のため
武田薬品工業(株)	58,080	348	取引関係強化のため
日本新薬(株)	79,279	346	取引関係強化のため
第一三共(株)	128,658	245	取引関係強化のため
日医工(株)	88,350	244	取引関係強化のため
明治ホールディングス(株)	16,213	237	取引関係強化のため
(株)三菱ケミカルホールディングス	337,611	235	取引関係強化のため
(株)ツムラ	71,010	210	取引関係強化のため
鳥居薬品(株)	55,956	179	取引関係強化のため
中外製薬(株)	45,398	171	取引関係強化のため
大日本住友製薬(株)	120,378	171	取引関係強化のため
(株)パソナグループ	200,000	148	取引関係強化のため
キョーリン製薬ホールディングス(株)	50,000	143	取引関係強化のため
田辺三菱製薬(株)	66,453	137	取引関係強化のため
アルフレッサホールディングス(株)	61,888	104	事業上の関係強化のため
住友化学(株)	168,080	103	取引関係強化のため
アステラス製薬(株)	44,555	87	取引関係強化のため
キッセイ薬品工業(株)	21,830	81	取引関係強化のため
堺化学工業(株)	181,000	70	取引関係強化のため
協和発酵キリン(株)	45,111	70	取引関係強化のため
(株)メディパルホールディングス	40,400	63	事業上の関係強化のため
扶桑薬品工業(株)	182,974	56	取引関係強化のため
旭化成(株)	46,517	53	取引関係強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	10,493	48	財務活動円滑化のため

八．保有目的が純投資目的である投資株式

該当する投資株式は保有しておりません。

当社及び連結子会社のうち、投資株式の貸借対照表計上額(投資株式計上額)が最大保有会社の次に大きい会社である(株)バイタルネットについては以下のとおりです。

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 109銘柄
貸借対照表計上額の合計額 17,713百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
大塚ホールディングス(株)	2,496,000	7,705	取引関係強化のため
武田薬品工業(株)	136,419	667	取引関係強化のため
(株)ヤクルト	85,400	442	取引関係強化のため
アステラス製薬(株)	356,385	436	取引関係強化のため
エーザイ(株)	103,031	413	取引関係強化のため
キョーリン製薬ホールディングス(株)	185,000	364	取引関係強化のため
塩野義製薬(株)	175,606	335	取引関係強化のため
(株)ほくやく・竹山ホールディングス	457,781	320	事業上の関係強化のため
田辺三菱製薬(株)	208,453	300	取引関係強化のため
ファーマライズホールディングス(株)	396,000	239	取引関係強化のため
大正製薬ホールディングス(株)	25,200	209	取引関係強化のため
第一三共(株)	102,702	178	取引関係強化のため
久光製薬(株)	35,275	164	取引関係強化のため
(株)七十七銀行	320,000	148	財務活動円滑化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	639,300	130	財務活動円滑化のため
キッセイ薬品工業(株)	38,056	97	取引関係強化のため
明治ホールディングス(株)	14,229	92	取引関係強化のため
(株)第四銀行	222,392	84	財務活動円滑化のため
カメイ(株)	94,100	72	取引関係強化のため
大日本住友製薬(株)	43,345	71	取引関係強化のため
稲畑産業(株)	66,931	70	取引関係強化のため
バイエル薬品(株)	5,000	69	取引関係強化のため
小林製薬(株)	10,037	59	取引関係強化のため
(株)ツムラ	23,400	58	取引関係強化のため
中外製薬(株)	20,117	53	取引関係強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	12,000	52	財務活動円滑化のため
ロート製薬(株)	28,096	51	取引関係強化のため

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
小野薬品工業(株)	100,712	900	議決権行使権限
テルモ(株)	248,000	558	議決権行使権限
アステラス製薬(株)	391,490	479	議決権行使権限
エーザイ(株)	57,000	229	議決権行使権限
参天製薬(株)	41,302	189	議決権行使権限
持田製薬(株)	19,300	142	議決権行使権限
ゼリア新薬工業(株)	55,000	115	議決権行使権限
鳥居薬品(株)	30,600	102	議決権行使権限
中外製薬(株)	36,063	95	議決権行使権限
大日本住友製薬(株)	50,684	83	議決権行使権限
稲畑産業(株)	61,000	64	議決権行使権限
(株)三菱ケミカルホールディングス	145,545	62	議決権行使権限
塩野義製薬(株)	32,000	61	議決権行使権限
第一三共(株)	33,600	58	議決権行使権限

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
大塚ホールディングス(株)	2,496,000	9,383	取引関係強化のため
エーザイ(株)	104,241	889	取引関係強化のため
武田薬品工業(株)	136,419	818	取引関係強化のため
(株)ヤクルト	85,400	714	取引関係強化のため
塩野義製薬(株)	175,606	703	取引関係強化のため
アステラス製薬(株)	356,385	701	取引関係強化のため
キョーリン製薬ホールディングス(株)	185,000	531	取引関係強化のため
田辺三菱製薬(株)	208,453	429	取引関係強化のため
(株)ほくやく・竹山ホールディングス	457,781	310	事業上の関係強化のため
ファーマライズホールディングス(株)	396,000	231	取引関係強化のため
大正製薬ホールディングス(株)	25,200	225	取引関係強化のため
(株)七十七銀行	320,000	217	財務活動円滑化のため
明治ホールディングス(株)	14,229	208	取引関係強化のため
第一三共(株)	102,702	195	取引関係強化のため
久光製薬(株)	37,314	183	取引関係強化のため
キッセイ薬品工業(株)	39,208	147	取引関係強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	639,300	134	財務活動円滑化のため
(株)第四銀行	222,392	94	財務活動円滑化のため
バイエル薬品(株)	5,000	91	取引関係強化のため
小林製薬(株)	10,497	90	取引関係強化のため

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
カメイ(株)	94,100	82	取引関係強化のため
(株)三菱ケミカルホールディングス	117,945	82	取引関係強化のため
稲畑産業(株)	66,931	80	取引関係強化のため
中外製薬(株)	20,117	76	取引関係強化のため
(株)ツムラ	23,400	69	取引関係強化のため
大日本住友製薬(株)	43,345	61	取引関係強化のため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	12,000	55	財務活動円滑化のため
あすか製薬(株)	46,000	55	取引関係強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャルグループ	71,570	53	財務活動円滑化のため

みなし保有株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
小野薬品工業(株)	100,712	1,367	議決権行使権限
テルモ(株)	248,000	786	議決権行使権限
アステラス製薬(株)	391,440	770	議決権行使権限
エーザイ(株)	57,000	486	議決権行使権限
参天製薬(株)	206,510	361	議決権行使権限
持田製薬(株)	19,300	152	議決権行使権限
中外製薬(株)	36,063	136	議決権行使権限
塩野義製薬(株)	32,000	128	議決権行使権限
ゼリア新薬工業(株)	55,000	110	議決権行使権限
(株)三菱ケミカルホールディングス	145,545	101	議決権行使権限
鳥居薬品(株)	30,600	98	議決権行使権限
稲畑産業(株)	61,000	73	議決権行使権限
大日本住友製薬(株)	50,684	72	議決権行使権限
明治ホールディングス(株)	4,751	69	議決権行使権限
日本新薬(株)	15,400	67	議決権行使権限
第一三共(株)	33,600	64	議決権行使権限
協和発酵キリン(株)	40,000	62	議決権行使権限
電気化学工業(株)	131,411	62	議決権行使権限

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

八．保有目的が純投資目的である投資株式

区分	前事業年度 (百万円)	当事業年度(百万円)			
	貸借対照表計上額 の合計額	貸借対照表計上額 の合計額	受取配当金の 合計額	売却損益の合計額	評価損益の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	651	106	1	328	4

当社については以下のとおりです。

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 1 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 35百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

該当する保有株式はありません。

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式

該当する保有株式はありません。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

ロ．剰余金の配当等の決定機関

当社は、資本政策及び配当政策を機動的に遂行することが可能となるよう、剰余金の配当等会社法第459条第1項に定める事項については、法令に特段の定めがある場合を除き、取締役会決議によって定めることとする旨を定款に定めております。

ハ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役の決議により、毎年9月30日の株主名簿に記載又は記録されている株主若しくは登録株式質権者に対して会社法第454条第5項に定める中間配当をすることができる旨定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席した株主総会において、その議決権の過半数の決議によって選任する旨、また、累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	12		19	4
連結子会社	60	0	67	6
計	73	0	86	10

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

当社の連結子会社の一部は、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツと同一のネットワークに属しているデロイトトーマツコンサルティングに対して、非監査業務に基づく報酬2百万円を支払っております。

当連結会計年度

当社の連結子会社の一部は、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツと同一のネットワークに属しているデロイトトーマツコンサルティングに対して、非監査業務に基づく報酬2百万円を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、英文コンフォート・レター作成業務であります。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、会計監査人の監査計画の内容を勘案のうえ、会計監査人に対する監査報酬の額、監査担当者その他監査契約の内容が適切であるかについて、契約毎に検証し、監査役会の同意を得たうえで、決定することとしております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、また、監査法人等の主催する研修への参加や会計専門誌の定期購読等を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1 30,263	1 35,368
受取手形及び売掛金	126,361	123,659
たな卸資産	2 28,210	2 27,811
繰延税金資産	1,019	1,003
未収入金	13,738	14,159
その他	1,441	731
貸倒引当金	438	380
流動資産合計	200,597	202,355
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	33,677	40,152
減価償却累計額	22,091	23,312
建物及び構築物(純額)	1 11,586	1 16,839
機械装置及び運搬具	1,189	1,219
減価償却累計額	908	958
機械装置及び運搬具(純額)	281	261
土地	1 17,145	1 16,852
リース資産	3,605	4,987
減価償却累計額	1,980	2,773
リース資産(純額)	1,624	2,214
建設仮勘定	3,185	255
その他	2,615	3,087
減価償却累計額	2,204	2,525
その他(純額)	410	562
有形固定資産合計	34,234	36,987
無形固定資産		
のれん	17	4,817
その他	1,967	2,349
無形固定資産合計	1,984	7,167
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 3 32,601	1, 3 46,697
長期貸付金	418	497
退職給付に係る資産	2,734	3,767
繰延税金資産	130	149
その他	8,079	8,099
貸倒引当金	1,408	1,299
投資その他の資産合計	42,556	57,912
固定資産合計	78,776	102,066
資産合計	279,373	304,422

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 180,669	1 181,483
短期借入金	1 1,050	1 1,050
1年内返済予定の長期借入金	900	1,064
未払法人税等	785	869
返品調整引当金	173	178
賞与引当金	1,844	1,804
その他	3,480	3,811
流動負債合計	188,903	190,260
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	-	10,045
長期借入金	3,000	3,280
リース債務	1,114	1,699
繰延税金負債	6,420	9,602
役員退職慰労引当金	229	212
退職給付に係る負債	8,176	7,703
負ののれん	3,683	2,947
その他	278	461
固定負債合計	22,903	35,953
負債合計	211,806	226,214
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	12,675	12,675
利益剰余金	38,427	40,863
自己株式	1,986	4,060
株主資本合計	54,116	54,478
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,642	21,005
退職給付に係る調整累計額	413	2,286
その他の包括利益累計額合計	13,055	23,292
少数株主持分	394	437
純資産合計	67,566	78,208
負債純資産合計	279,373	304,422

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
売上高	564,655	548,012
売上原価	522,936	506,453
売上総利益	41,719	41,559
返品調整引当金戻入額	167	173
返品調整引当金繰入額	177	178
差引売上総利益	41,709	41,554
販売費及び一般管理費	¹ 38,510	¹ 39,742
営業利益	3,199	1,812
営業外収益		
受取利息	156	150
受取配当金	634	876
持分法による投資利益	76	836
受取賃貸料	60	115
受取事務手数料	1,525	1,430
負ののれん償却額	736	736
その他	311	369
営業外収益合計	3,502	4,515
営業外費用		
支払利息	42	46
社債発行費	-	42
賃貸費用	5	89
その他	21	24
営業外費用合計	70	202
経常利益	6,632	6,125
特別利益		
固定資産売却益	² 67	² 1
投資有価証券売却益	62	506
受取保険金	-	162
受取補償金	127	93
その他	⁴ 603	⁴ 119
特別利益合計	860	881
特別損失		
固定資産売却損	³ 8	³ 0
減損損失	⁶ 167	⁶ 579
投資有価証券評価損	189	-
解体費用	69	-
その他	⁵ 127	⁵ 37
特別損失合計	562	616
税金等調整前当期純利益	6,929	6,390
法人税、住民税及び事業税	1,492	1,617
法人税等調整額	1,153	200
法人税等合計	2,645	1,817
少数株主損益調整前当期純利益	4,283	4,572
少数株主利益	48	45
当期純利益	4,235	4,527

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	4,283	4,572
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	521	7,904
退職給付に係る調整額	-	1,873
持分法適用会社に対する持分相当額	3	457
その他の包括利益合計	1,517	10,236
包括利益	4,801	14,809
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,752	14,764
少数株主に係る包括利益	48	45

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,000	12,675	35,140	1,201	51,614
当期変動額					
剰余金の配当			948		948
当期純利益			4,235		4,235
自己株式の取得				785	785
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	3,287	785	2,501
当期末残高	5,000	12,675	38,427	1,986	54,116

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	12,125	-	12,125	348	64,088
当期変動額					
剰余金の配当					948
当期純利益					4,235
自己株式の取得					785
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	517	413	930	46	976
当期変動額合計	517	413	930	46	3,478
当期末残高	12,642	413	13,055	394	67,566

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,000	12,675	38,427	1,986	54,116
会計方針の変更による累積的影響額			1,178		1,178
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,000	12,675	37,248	1,986	52,937
当期変動額					
剰余金の配当			912		912
当期純利益			4,527		4,527
自己株式の取得				2,073	2,073
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	3,615	2,073	1,541
当期末残高	5,000	12,675	40,863	4,060	54,478

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	12,642	413	13,055	394	67,566
会計方針の変更による累積的影響額					1,178
会計方針の変更を反映した当期首残高	12,642	413	13,055	394	66,387
当期変動額					
剰余金の配当					912
当期純利益					4,527
自己株式の取得					2,073
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	8,362	1,873	10,236	43	10,279
当期変動額合計	8,362	1,873	10,236	43	11,820
当期末残高	21,005	2,286	23,292	437	78,208

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,929	6,390
減価償却費	2,213	2,581
減損損失	167	579
のれん償却額	10	233
負ののれん償却額	736	736
貸倒引当金の増減額(は減少)	702	168
賞与引当金の増減額(は減少)	228	290
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	670	78
受取利息及び受取配当金	791	1,027
受取賃貸料	60	115
受取事務手数料	1,525	1,430
支払利息	42	46
持分法による投資損益(は益)	76	836
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	130	506
有形固定資産除売却損益(は益)	55	0
受取保険金	-	162
売上債権の増減額(は増加)	15,553	3,854
たな卸資産の増減額(は増加)	275	706
未収入金の増減額(は増加)	393	418
差入保証金の増減額(は増加)	247	103
仕入債務の増減額(は減少)	694	846
その他	98	224
小計	9,235	7,811
利息及び配当金の受取額	803	1,032
受取事務手数料の受取額	1,496	1,427
保険金の受取額	-	162
受取補償金の受取額	127	93
利息の支払額	42	47
法人税等の支払額	3,774	1,781
法人税等の還付額	190	860
その他	26	43
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,409	9,515
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	8,157	2,879
有形固定資産の取得による支出	4,846	3,460
有形固定資産の売却による収入	252	24
無形固定資産の取得による支出	1,081	898
投資有価証券の取得による支出	524	3,070
投資有価証券の売却による収入	451	1,421
投資事業組合からの分配による収入	143	15
貸付金の回収による収入	101	43
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 5,246
その他	52	293
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,602	13,755

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	3,000	1,200
長期借入金の返済による支出	-	948
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	-	10,050
リース債務の返済による支出	637	840
自己株式の取得による支出	785	2,073
配当金の支払額	948	911
その他	2	44
財務活動によるキャッシュ・フロー	627	6,432
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	7,179	2,192
現金及び現金同等物の期首残高	33,360	25,206
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	974	-
現金及び現金同等物の期末残高	1 25,206	1 27,398

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 13社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略していません。

なお、当期より、新たに株式を取得し子会社とした株式会社オオノを連結の範囲に含めております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

(株)グッドネイバー、(株)ケーエスアール、(株)ヘルスマート新潟

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数 社

(2) 持分法適用の関連会社数 1社

主要な会社等の名称 (株)ファイネス

(3) 持分法を適用していない非連結子会社(株)グッドネイバー他)及び関連会社(株)宮城登米広域介護サービス他)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

また、市場販売目的のソフトウェアについては、販売開始後3年以内の見込販売数量に基づく償却額と残存有効期間に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

返品調整引当金

販売した商品の返品に備えるため、将来の返品に伴う損失見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

なお、一部の連結子会社は内規の改定により役員退職慰労金制度を廃止しており、内規上の経過措置から生じる役員退職慰労金の要支給額のみを計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法によりそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

主として、その効果が発現すると見積もられる期間で均等償却しております。

なお、(株)ケーエスケーの取得に係る負ののれんの償却年数は10年であります。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用としております。

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当連結会計年度より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当連結会計年度の期首の退職給付に係る資産が496百万円減少、退職給付に係る負債が1,325百万円増加し、利益剰余金が1,178百万円減少しております。また、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ92百万円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(未適用の会計基準等)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)

「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)

「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成25年9月13日)

「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)

「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成25年9月13日)

(1)概要

本会計基準等は、子会社株式の追加取得等において支配が継続している場合の子会社に対する親会社の持分変動の取扱い、取得関連費用の取扱い、当期純利益の表示及び少数株主持分から非支配株主持分への変更、暫定的な会計処理の取扱いを中心に改正されたものです。

(2)適用予定日

平成28年3月期の期首より適用予定です。なお、暫定的な会計処理の取扱いについては、平成28年3月期の期首以後実施される企業結合から適用予定です。

(3)当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響は評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「無形固定資産」の「その他」に含めていた「のれん」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。また、前連結会計年度において「流動負債」の「短期借入金」に含めていた「1年内返済予定の長期借入金」は明瞭性の観点から、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「無形固定資産」の「その他」に表示していた1,984百万円は、「のれん」17百万円、「その他」1,967百万円に、「流動負債」の「短期借入金」に表示していた1,950百万円は、「短期借入金」1,050百万円、「1年内返済予定の長期借入金」900百万円として組替えております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、受取賃貸料に対応する費用について、減価償却費及び租税公課の経費等は販売費及び一般管理費に含めて表示していましたが、当連結会計年度より、当該金額の重要性が増したため、「営業外費用」の「賃貸費用」として表示する方法に変更いたしました。また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました「特別利益」の「貸倒引当金戻入額」（当連結会計年度は38百万円）は重要性が乏しいため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示し、前連結会計年度において、「特別利益」の「その他」に含めていた「投資有価証券売却益」は、特別利益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「販売費及び一般管理費」に表示していた5百万円は「営業外費用」の「賃貸費用」として、また、「特別利益」の「その他」に表示していた72百万円は「投資有価証券売却益」62百万円、「貸倒引当金戻入額」（前連結会計年度は593百万円）を含めた「その他」603百万円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び対応債務

(担保に供している資産)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
現金及び預金(定期預金)	143百万円	143百万円
建物	597	566
土地	895	895
投資有価証券	4,056	6,284
計	5,693	7,890

(対応債務)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
支払手形及び買掛金	54,221百万円	52,667百万円
短期借入金	300	300
計	54,521	52,967

2 たな卸資産の内訳は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
商品及び製品	28,189百万円	27,801百万円
仕掛品	6	
原材料及び貯蔵品	15	9
計	28,210	27,811

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
投資有価証券(株式)	582百万円	4,523百万円

4 保証債務

連結会社以外の会社及び連結子会社の従業員の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
(株)宮城登米広域介護サービス (金融機関借入金)	18百万円	11百万円
(株)ケーエスケー従業員 (金融機関借入金)	4	1
計	22	12

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
荷造費・運賃配送費	4,230百万円	4,195百万円
給与・賞与・手当	18,385	18,620
賞与引当金繰入額	1,827	1,771
退職給付費用	1,635	1,439

2 固定資産売却益の内容

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
土地	61百万円	0百万円
その他	6	1
計	67	1

3 固定資産売却損の内容

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
土地	8百万円	0百万円
その他	0	
計	8	0

4 特別利益のその他の内容

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
国庫補助金	百万円	46百万円
貸倒引当金戻入額	593	38
その他	10	34
計	603	119

5 特別損失のその他の内容

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
投資有価証券売却損	3百万円	0百万円
特別退職金	56	
その他	67	37
計	127	37

6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

場所	用途	種類
(株)バイタルネットいわき支店(福島県いわき市)等事業所4箇所	事業用資産	土地、建物及びその他
(株)バイタルネット宮城県仙台市	賃貸用資産	土地、建物及びその他
(株)バイタルネット新潟県新潟市	共用資産	建物
(株)バイタルネット宮城県仙台市等6箇所	遊休資産	土地及び建物

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として、事業用資産については支店単位、また、賃貸用資産及び遊休資産については各物件を個別の資産グループとしております。

これらの資産グループのうち、営業活動から生じる損益が継続してマイナスである事業用資産、用途の変更による共用資産及び近年の地価下落等により土地価格が著しく下落している遊休資産について、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(167百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物75百万円、土地90百万円及びその他1百万円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は、主として不動産鑑定士による不動産鑑定評価額、重要性の乏しい物件については路線価による相続税評価額又は固定資産税評価額に合理的調整を行って算出した金額を使用しております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

場所	用途	種類
(株)バイタルネット二戸支店 (岩手県二戸市)等4箇所	事業用資産	建物、土地及びその他
(株)バイタルエージェンシー 宮城県仙台市等2箇所	賃貸用資産	建物、土地及びその他

当社グループはキャッシュ・フローを生み出す最小単位として、事業用資産については支店単位、また、賃貸用資産及び遊休資産については各物件を個別の資産グループとしております。

これらの資産グループのうち、時価の著しい下落または収益性の低下により、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(579百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は建物58百万円、土地514百万円及びその他5百万円であります。

なお、当該資産の回収可能価額は正味売却価額または使用価値により測定しており、正味売却価額は、主として不動産鑑定士による不動産鑑定評価額、重要性の乏しい物件については路線価による相続税評価額又は固定資産税評価額に合理的調整を行って算出した金額を使用しております。また、使用価値は将来キャッシュ・フローを3.5%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	779百万円	11,290百万円
組替調整額	31	499
税効果調整前	747	10,790
税効果額	226	2,885
その他有価証券評価差額金	521	7,904
退職給付に係る調整額		
当期発生額		2,865
組替調整額		101
税効果調整前		2,764
税効果額		890
退職給付に係る調整額		1,873
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	3	457
その他の包括利益合計	517	10,236

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	61,224			61,224
合計	61,224			61,224
自己株式				
普通株式	1,958	1,122		3,080
合計	1,958	1,122		3,080

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,122千株は、立会外買付取引による増加1,121千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月22日 取締役会	普通株式	474	8.00	平成25年3月31日	平成25年6月6日
平成25年11月8日 取締役会	普通株式	474	8.00	平成25年9月30日	平成25年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	465	利益剰余金	8.00	平成26年3月31日	平成26年6月9日

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	61,224			61,224
合計	61,224			61,224
自己株式				
普通株式	3,080	2,229		5,310
合計	3,080	2,229		5,310

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2,229千株は、立会外買付取引による増加2,229千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	465	8.00	平成26年3月31日	平成26年6月9日
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	447	8.00	平成26年9月30日	平成26年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月14日 取締役会	普通株式	559	利益剰余金	10.00	平成27年3月31日	平成27年6月8日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
現金及び預金勘定	30,263百万円	35,368百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	5,057	7,970
現金及び現金同等物	25,206	27,398

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに株式会社オオノを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式会社オオノの取得価額と株式会社オオノの取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	3,271百万円
固定資産	1,427 "
のれん	4,999 "
流動負債	2,932 "
固定負債	433 "
株式の取得価額	6,333百万円
支払留保額	100 "
現金及び現金同等物	984 "
差引：取得のための支出	5,246百万円

(リース取引関係)

<借主側>

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として医薬品卸売事業における情報系設備(器具備品)であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係わる未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
1年内	37	37
1年超	75	37
合計	113	75

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品			
その他			
合計			

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成27年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品			
その他			
合計			

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
1年内		
1年超		
合計		

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)
支払リース料	6	
減価償却費相当額	5	
支払利息相当額	0	

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

- ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に医薬品の卸売事業を行うための設備投資計画に照らして、転換社債の発行、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。また、一時的な余剰資金については、ほとんどを短期的な安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

売上債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、未収入金は、仕入先からの割戻金等及び収納代行会社に対する未収自動集金残高であり、仕入先及び収納代行会社に対する信用リスクがあるものの、ほとんどが短期間で決済されるものであり、また、信用リスクが低い取引先となっております。投資有価証券は、主として株式であり、市場価格のあるものについては、市場価格の変動リスクに晒されております。

仕入債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日となっております。借入金については、主に設備投資に必要な資金の調達と金融機関との友好的関係維持を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

顧客の信用リスクの管理

当社グループは、売上債権について、各連結子会社の債権管理部門が債権管理規程に従い顧客の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券の市場リスクの管理

当社グループは、投資有価証券について、定期的に時価や発行体の財務状況を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理財務部が適時に資金繰計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2参照）。

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	30,263	30,263	
(2)受取手形及び売掛金	126,361	125,923	437
(3)未収入金	13,738	13,737	0
(4)投資有価証券 其他有価証券	30,237	30,237	
資産計	200,601	200,162	438
(1)支払手形及び買掛金	180,669	180,669	
負債計	180,669	180,669	

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	35,368	35,368	
(2)受取手形及び売掛金	123,659	123,280	379
(3)未収入金	14,159	14,159	0
(4)投資有価証券 其他有価証券	39,816	39,816	
資産計	213,005	212,625	380
(1)支払手形及び買掛金	181,483	181,483	
(2)転換社債型新株予約権付社債	10,045	10,382	336
負債計	191,528	191,865	336

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)受取手形及び売掛金、並びに(3)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額から信用リスクである貸倒引当金を控除した価格によっております。

(4)投資有価証券

時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照下さい。

負債

(1)支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)転換社債型新株予約権付社債

転換社債型新株予約権付社債の時価は、取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額(百万円)

区 分	平成26年3月31日	平成27年3月31日
非上場株式	963	4,906
その他	1,400	1,973

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(4)投資有価証券」には含めておりません。なお、前連結会計年度189百万円について減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	30,263			
受取手形及び売掛金	126,361			
未収入金	13,738			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
社債	101	103		
その他		241		193
合計	170,464	344		193

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	35,368			
受取手形及び売掛金	123,659			
未収入金	14,159			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
社債		100		
その他		51		96
合計	173,188	151		96

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成26年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1)株式	28,423	9,133	19,289
	(2)債券			
	国債・地方債等			
	社債	204	185	19
	その他			
	(3)その他	342	251	90
	小計	28,970	9,570	19,400
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1)株式	819	928	109
	(2)債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他	240	246	6
	(3)その他	309	314	5
	小計	1,368	1,489	121
	合計	30,339	11,060	19,278

当連結会計年度(平成27年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1)株式	38,991	9,532	29,459
	(2)債券			
	国債・地方債等			
	社債			
	その他	77	76	0
	(3)その他	206	160	45
	小計	39,274	9,769	29,505
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1)株式	125	148	23
	(2)債券			
	国債・地方債等			
	社債	93	93	
	その他	274	278	3
	(3)その他	49	51	2
	小計	542	571	29
	合計	39,816	10,341	29,475

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	23	16	
(2)債券			
国債・地方債等			
社債	182	32	
その他			
(3)その他	202		2
合計	408	48	2

当連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1)株式	758	330	0
(2)債券			
国債・地方債等			
社債	354	19	
その他			
(3)その他	546	149	
合計	1,659	499	0

3 減損処理を行った有価証券

減損処理にあたっては、当連結会計年度末の市場価格と取得原価とを比較し、下落率が50%以上の銘柄については全て減損処理を行い、過去2年間にわたり下落率が30%以上50%未満の範囲で推移した場合には、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。また、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券については、財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、回復可能性等を考慮して減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。当該制度では、加入者ごとに積立額及び年金額の前原資に相当する仮想個人口座を設けております。仮想個人口座には、主として市場金利の動向に基づく利息クレジットと、給与水準等に基づく拠出クレジットを累積しております。

一部の確定給付企業年金制度には、退職給付信託が設定されております。退職一時金制度(非積立型制度であります)が、退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

また、一部の連結子会社は、東北薬業厚生年金基金及び大阪薬業厚生年金基金に加入しており、退職給付に関する会計基準第33項(2)(複数事業主制度の企業年金について)により、年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

前連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

(東北薬業厚生年金基金)

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、393百万円であります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

(平成25年3月31日現在)

年金資産の額	25,030百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	26,225百万円
差引額	1,194百万円

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

41%(自平成25年3月1日至平成25年3月31日)

(3) 補足説明

差引額の要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高2,465百万円と別途積立金1,270百万円であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は、償却期間20年9カ月の元利均等償却であり、当社グループは、連結財務諸表上、特別掛金を141百万円費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(大阪薬業厚生年金基金)

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、414百万円であります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

(平成25年3月31日現在)

年金資産の額	257,829百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	354,524百万円
差引額	96,695百万円

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

4%(自平成25年3月1日至平成25年3月31日)

(3) 補足説明

差引額の要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高51,990百万円及び繰越不足金44,704百万円であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は、償却期間19年元利均等償却であり、当社グループは、連結財務諸表上、特別掛金を163百万円費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

当連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（東北薬業厚生年金基金）

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、412百万円であります。

（1）制度全体の積立状況に関する事項

（平成26年3月31日現在）

年金資産の額	27,790百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	28,286百万円
差引額	495百万円

（2）制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

44%（自平成26年3月1日 至平成26年3月31日）

（3）補足説明

差引額の要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高 3,539百万円、別途積立金1,270百万円及び当年度剰余金1,773百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は、償却期間20年9カ月の元利均等償却であり、当社グループは、連結財務諸表上、特別掛金を144百万円費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

（大阪薬業厚生年金基金）

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、411百万円であります。

（1）制度全体の積立状況に関する事項

（平成26年3月31日現在）

年金資産の額	292,416百万円
年金財政計算上の数理債務の額と最低責任準備金の額との合計額	366,867百万円
差引額	74,450百万円

（2）制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

3%（自平成26年3月1日 至平成26年3月31日）

（3）補足説明

差引額の要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高50,581百万円及び繰越不足金23,869百万円でありま

す。本制度における過去勤務債務の償却方法は、償却期間19年元利均等償却であり、当社グループは、連結財務諸表上、特別掛金を165百万円費用処理しております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

2 確定給付制度

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付債務の期首残高	19,170百万円	18,847百万円
会計方針の変更による累積的影響額		1,822
会計方針の変更を反映した期首残高	19,170	20,670
勤務費用	743	641
利息費用	172	159
数理計算上の差異の発生額	519	862
退職給付の支払額	718	733
退職給付債務の期末残高	18,847	19,874

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
年金資産の期首残高	12,288百万円	13,751百万円
期待運用収益	179	195
数理計算上の差異の発生額	704	2,003
事業主からの拠出額	805	575
退職給付の支払額	227	217
年金資産の期末残高	13,751	16,308

(3)簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	685百万円	346百万円
退職給付費用	71	54
退職給付の支払額	131	27
制度への拠出額	4	5
連結除外に伴う減少	275	
退職給付に係る負債の期末残高	346	368

(4)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	10,938百万円	11,824百万円
年金資産	13,751	16,308
	2,813	4,483
非積立型制度の退職給付債務	8,255	8,419
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,442	3,935
退職給付に係る負債	8,176	7,703
退職給付に係る資産	2,734	3,767
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	5,442	3,935

(注)簡便法を適用した制度を含みます。

(5)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
勤務費用	743百万円	641百万円
利息費用	172	159
期待運用収益	179	195
数理計算上の差異の費用処理額	6	80
過去勤務費用の費用処理額	52	20
簡便法で計算した退職給付費用	67	54
確定給付制度に係る退職給付費用	757	558

(注)上記退職給付費用以外に、特別退職金として前連結会計年度56百万円、当連結会計年度6百万円が確定しており、特別損失(その他)として計上しております。

(6)退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
未認識過去勤務費用	百万円	20百万円
未認識数理計算上の差異		2,784
合計		2,764

(7)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
未認識過去勤務費用	40百万円	19百万円
未認識数理計算上の差異	584	3,369
合計	624	3,388

(8)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
株式	48.1%	56.2%
一般勘定	29.3%	24.5%
債券	16.4%	16.1%
その他	6.2%	3.2%
合計	100.0%	100.0%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度29.0%、当連結会計年度35.1%含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9)数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
割引率 (株)バイタルネット他2社	0.9%	0.9%
(株)ケーエスケー	0.9%	0.7%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%

(注) 1. 退職給付信託の長期期待運用収益率については0.0%であります。

2. 平成26年12月31日を基準日として算定した年齢別昇給指数を使用しております。

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は64百万円でありました。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	656 百万円	602 百万円
貸倒引当金	575 "	524 "
投資有価証券	286 "	262 "
退職給付に係る負債	3,024 "	2,727 "
役員退職慰労引当金	95 "	88 "
税務上の繰越欠損金	258 "	223 "
建物及び構築物等	244 "	226 "
土地	328 "	413 "
その他有価証券評価差額金	63 "	7 "
その他	620 "	535 "
繰延税金資産小計	6,154 "	5,612 "
評価性引当額	1,402 "	1,245 "
繰延税金資産合計	4,752 "	4,367 "
繰延税金負債		
退職給付信託	390 "	338 "
退職給付に係る資産	237 "	682 "
その他有価証券評価差額金	8,422 "	11,110 "
固定資産圧縮積立金	447 "	418 "
その他	524 "	266 "
繰延税金負債合計	10,022 "	12,816 "
繰延税金資産(負債)の純額	5,269 "	8,449 "

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
流動資産 繰延税金資産	1,019 百万円	1,003 百万円
固定資産 繰延税金資産	130 "	149 "
固定負債 繰延税金負債	6,420 "	9,602 "

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	%	35.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		1.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		2.7
住民税均等割		1.7
評価性引当額の減少		1.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		2.7
負ののれんの償却額		4.1
のれんの償却額		1.2
持分法による投資利益		4.7
その他		0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.4	28.4

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.1%、平成28年4月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が935百万円増加し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が172百万円、その他有価証券評価差額金1,108百万円それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

1. 取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び取得した事業の内容

名称 : 株式会社オオノ

事業内容 : 調剤薬局の経営

資本金 : 60百万円

企業結合を行った主な理由

(株)オオノは宮城県仙台市に本社を置き、宮城県を中心に1都5県に50店舗を超える調剤薬局を展開致しており、当社の事業子会社である(株)バイタルネットは東北6県並びに新潟県を主たる事業エリアとする医薬品卸を営んでおります。事業エリアを一にする(株)オオノの株式取得により、「地域包括ケア」を推進し、更なる収益力強化を目指します。

企業結合日

平成26年7月14日

企業結合の法的形式

株式の取得

結合後企業の名称

株式会社オオノ

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

(株)バイタルネットが現金を対価として(株)オオノの全株式を取得し、連結子会社化したことによるものであります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成26年7月1日から平成27年3月31日までの業績を含めております。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	6,304百万円
取得に直接要した費用	アドバイザー費用等	29百万円
取得原価		6,333百万円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん	金額	4,999百万円
発生原因		今後の事業展開により期待される超過収益力であります。
償却方法及び償却期間		17年間にわたる均等償却

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	3,271百万円
固定資産	1,427百万円
資産合計	4,699百万円
流動負債	2,932百万円
固定負債	433百万円
負債合計	3,366百万円

(6) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

当該影響額は軽微のため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、開示を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、開示を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、その主たるセグメントである「医薬品卸売事業」を報告セグメントとしております。

「医薬品卸売事業」は、病院、開業医、薬局等の医療機関に、医薬品・診断薬・医療機器・材料等の販売等をしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「医薬品卸売事業」のセグメント利益が92百万円増加し、「その他」のセグメント利益が0百万円増加しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	医薬品 卸売事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	549,835	549,835	14,820	564,655		564,655
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,347	1,347	2,615	3,962	3,962	
計	551,183	551,183	17,435	568,618	3,962	564,655
セグメント利益	2,772	2,772	340	3,112	86	3,199
セグメント資産	270,239	270,239	10,710	280,950	1,576	279,373
その他の項目						
減価償却費	2,120	2,120	93	2,213		2,213
のれんの償却			10	10		10
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	6,226	6,226	380	6,606		6,606

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品等の小売業、農業・動物用医薬品の卸売業、運送業、介護サービス業、医療機関に対するコンサルティング業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額86百万円、セグメント資産の調整額 1,576百万円はセグメント間取引消去等によるものであります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	医薬品 卸売事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	524,039	524,039	23,973	548,012		548,012
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,031	3,031	2,609	5,641	5,641	
計	527,071	527,071	26,583	553,654	5,641	548,012
セグメント利益	1,503	1,503	223	1,727	85	1,812
セグメント資産	291,435	291,435	15,437	306,872	2,450	304,422
その他の項目						
減価償却費	2,300	2,300	280	2,581		2,581
のれんの償却			233	233		233
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	5,834	5,834	372	6,207		6,207

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品等の小売業、農薬・動物用医薬品の卸売業、運送業、介護サービス業、医療機関に対するコンサルティング業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額85百万円、セグメント資産の調整額 2,450百万円はセグメント間取引消去等によるものであります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	医薬品 卸売事業	計				
減損損失	167	167		167		167

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	医薬品 卸売事業	計				
減損損失	130	130	448	579		579

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	医薬品 卸売事業	計				
(のれん)						
当期償却高			10	10		10
当期末残高			17	17		17
(負ののれん)						
当期償却高	736	736		736		736
当期末残高	3,683	3,683		3,683		3,683

当連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント		その他	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	医薬品 卸売事業	計				
(のれん)						
当期償却高			233	233		233
当期末残高			4,817	4,817		4,817
(負ののれん)						
当期償却高	736	736		736		736
当期末残高	2,947	2,947		2,947		2,947

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)ファイネス (注)3	石川県 金沢市	98	医薬品卸売業	(所有) 直接2.6	医薬品の販売	医薬品の販売	2,464	売掛金	4,530

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等を含まず表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

医薬品の販売・配送は、市場価格を勘案し、その都度交渉の上で決定しております。

3. 平成26年1月1日付で持分法適用関連会社となった(株)ファイネスについては、それ以後の期間の取引金額を記載しております。なお、売掛金については平成26年1月1日以前の取引金額も含めて記載しております。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	(株)ファイネス	石川県 金沢市	98	医薬品卸売業	(所有) 直接33.4	医薬品の販売	医薬品の販売 株式の取得	11,011 2,619	売掛金	3,870

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等を含まず表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

医薬品の販売・配送は、市場価格を勘案し、その都度交渉の上で決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)浜名コーポレーション (注)4	宮城県 仙台市	10	楽器及び医薬品等の配送、倉庫その他の管理	(被所有) 直接0.0	医薬品の配送	医薬品の配送	372	未払金	32
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(有)堀野調剤薬局 (注)5	岩手県 二戸市	5	調剤薬局	なし	医薬品の販売	医薬品の販売	294	売掛金	105
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(有)ライフシステム (注)6	大阪府 茨木市	3	調剤薬局	なし	医薬品の販売	医薬品の販売	35	売掛金	10

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等を含まず表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

医薬品の販売・配送は、市場価格を勘案し、その都度交渉の上で決定しております。

3. 連結子会社取締役五十嵐友治郎及びその近親者が議決権の76.00%を直接所有しております。

4. 連結子会社取締役金澤悟及びその近親者が議決権の52.00%を直接所有しております。

5. 当社取締役藤澤清文の近親者が議決権の66.67%を直接所有しております。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)浜名コーポレーション (注)3	宮城県 仙台市	10	楽器及び医薬品等の配送、倉庫その他の管理	(被所有) 直接0.0	医薬品の配送	医薬品の配送	350	未払金	31
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(有)堀野調剤薬局(注)4	岩手県 二戸市	5	調剤薬局	なし	医薬品の販売	医薬品の販売	293	売掛金	108
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(同)SK (注)5	宮城県 仙台市	1	不動産業	なし	土地・建物を 売買	土地・建物を 売却	24		

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等を含まず表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

土地・建物の売却及び医薬品の販売・配送は、市場価格を勘案し、その都度交渉の上で決定しております。

3. 連結子会社取締役五十嵐友治郎及びその近親者が議決権の76.00%を直接所有しております。

4. 連結子会社取締役金澤悟及びその近親者が議決権の52.00%を直接所有しております。

5. 当社取締役鈴木賢の近親者が100%出資をしております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	1,155円26銭	1,390円89銭
1株当たり当期純利益金額	71円96銭	79円51銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		73円56銭

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	4,235	4,527
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る当期純利益(百万円)	4,235	4,527
普通株式の期中平均株式数(千株)	58,857	56,947
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)		2
(うち支払利息(税額相当額控除後)(百万円))		(2)
普通株式増加数(千株)		4,566
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要		

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	67,566	78,208
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	394	437
(うち少数株主持分(百万円))	(394)	(437)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	67,172	77,770
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	58,144	55,914

3. 「会計方針の変更」に記載の通り、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取り扱いに従っております。

この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額が41円97銭減少し、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、1円05銭及び0円98銭増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
(株)バイタル ケーエス ケー・ホー ルディング ス	2020年満期ユーロ円貨建 換社債型新株予約権付社債	平成26年 9月26日		10,045		なし	平成32年 9月28日
合計				10,045			

(注) 1. 新株予約権付社債に関する記載は次のとおりであります。

発行すべき株式	普通株式
新株予約権の発行価額(円)	無償
株式の発行価格(円)	1,116
発行価額の総額(百万円)	10,000
新株予約権の行使により発行した株式の発行価額の総額(百万円)	
新株予約権の付与割合(%)	100
新株予約権の行使期間	自 平成26年10月10日 至 平成32年9月14日

(注) なお、新株予約権を行使しようとする者の請求があるときは、その新株予約権が付せられた社債の全額の償還に代えて、新株予約権の行使に際して払込をなすべき額の全額の払込があったものとします。また、新株予約権が行使されたときには、当該請求があったものとみなします。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,050	1,050	0.42	
1年以内に返済予定の長期借入金	900	1,064	0.05	
1年以内に返済予定のリース債務	719	680	1.34	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,000	3,280	0.22	平成30年2月20日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,114	1,699	1.34	平成27年4月30日～ 平成32年3月29日
その他有利子負債				
合計	6,784	7,774		

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、長期借入金は利子補給後(復興特区支援利子補給金)の利率を記載しております。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	1,000	2,280		
リース債務	521	405	357	185

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定に基づき記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	132,046	265,486	415,531	548,012
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,654	3,520	5,811	6,390
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	2,016	2,536	4,067	4,527
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	34.69	43.76	71.00	79.51

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	34.69	9.00	27.37	8.24

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,221	2,941
売掛金	1 41,679	1 41,668
前払費用	4	36
繰延税金資産	21	49
未収入金	1 1,921	1 1,951
その他	241	1 240
流動資産合計	48,090	46,887
固定資産		
有形固定資産		
建物	5	4
機械及び装置	55	47
工具、器具及び備品	10	14
リース資産	718	471
有形固定資産合計	790	537
無形固定資産		
ソフトウェア	185	74
ソフトウェア仮勘定	729	1,471
リース資産	24	1
その他	0	0
無形固定資産合計	940	1,549
投資その他の資産		
投資有価証券	35	35
関係会社株式	45,538	48,186
長期貸付金	-	1 85
繰延税金資産	4	0
その他	94	99
投資その他の資産合計	45,672	48,406
固定資産合計	47,403	50,493
資産合計	95,493	97,381

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	41,625	41,615
短期借入金	1 6,000	-
リース債務	283	121
未払金	1 1,979	1 1,982
未払法人税等	40	42
賞与引当金	20	19
その他	0	73
流動負債合計	49,949	43,853
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	-	10,045
リース債務	489	368
固定負債合計	489	10,413
負債合計	50,438	54,267
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金		
資本準備金	1,250	1,250
その他資本剰余金	39,102	39,102
資本剰余金合計	40,352	40,352
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,689	1,821
利益剰余金合計	1,689	1,821
自己株式	1,986	4,060
株主資本合計	45,054	43,113
純資産合計	45,054	43,113
負債純資産合計	95,493	97,381

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	当事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)
営業収益		
営業収益合計	2 1,770	2 1,868
営業費用		
一般管理費	1, 2 554	1, 2 765
営業費用合計	554	765
営業利益	1,215	1,103
営業外収益		
受取利息	1	5
その他	1	1
営業外収益合計	3	6
営業外費用		
支払利息	2 36	2 41
社債発行費	-	42
その他	1	0
営業外費用合計	38	83
経常利益	1,180	1,026
税引前当期純利益	1,180	1,026
法人税、住民税及び事業税	34	5
法人税等調整額	3	24
法人税等合計	30	18
当期純利益	1,150	1,045

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	5,000	1,250	39,102	40,352
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	5,000	1,250	39,102	40,352

	株主資本				純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
	繰越利益剰余金				
当期首残高	1,487	1,487	1,201	45,638	45,638
当期変動額					
剰余金の配当	948	948		948	948
当期純利益	1,150	1,150		1,150	1,150
自己株式の取得			785	785	785
当期変動額合計	202	202	785	583	583
当期末残高	1,689	1,689	1,986	45,054	45,054

当事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	5,000	1,250	39,102	40,352
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	5,000	1,250	39,102	40,352

	株主資本				純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
	繰越利益剰余金				
当期首残高	1,689	1,689	1,986	45,054	45,054
当期変動額					
剰余金の配当	912	912		912	912
当期純利益	1,045	1,045		1,045	1,045
自己株式の取得			2,073	2,073	2,073
当期変動額合計	132	132	2,073	1,941	1,941
当期末残高	1,821	1,821	4,060	43,113	43,113

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8年～15年

機械及び装置 17年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「無形固定資産」の「その他」に含めていた「ソフトウェア仮勘定」は金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「無形固定資産」の「その他」に表示していた730百万円は「ソフトウェア仮勘定」729百万円、「その他」0百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
短期金銭債権	41,716百万円	41,748百万円
長期金銭債権		85
短期金銭債務	7,962	1,956

(損益計算書関係)

1 一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
給与・賞与・手当	244百万円	324百万円
租税公課	50	129
賞与引当金繰入額	19	19
減価償却費	26	28

2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	1,770百万円	1,868百万円
営業費用	7	5
営業取引以外の取引による取引高		
受取利息		0
支払利息	33	30

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(百万円)

区分	前事業年度末 (平成26年3月31日)	当事業年度末 (平成27年3月31日)
子会社株式	45,269	45,269
関連会社株式	268	2,916
計	45,538	48,186

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産の発生主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	7百万円	6百万円
未払事業税	10	12
税務上の繰越欠損金		27
関係会社株式	17	15
その他	7	3
繰延税金資産小計	43	65
評価性引当額	17	15
繰延税金資産合計	25	49

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
法定実効税率	38.0%	35.6%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	35.5	38.2
住民税均等割	0.1	0.1
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.1	0.3
その他	0.2	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.6	1.8

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産の計算(ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.1%、平成28年4月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額が3百万円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が3百万円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却累計額 (百万円)
有形固定資産	建物	5			0	4	8
	機械及び装置	55			8	47	28
	工具、器具及び備品	10	8		4	14	31
	リース資産	718			247	471	769
	有形固定資産計	790	8		261	537	838
無形固定資産	ソフトウェア	185	3		114	74	502
	ソフトウェア仮勘定	729	742			1,471	
	リース資産	24			23	1	113
	その他	0			0	0	0
	無形固定資産計	940	745		137	1,549	616

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の当期償却額のうち関係会社が使用しているリース資産及びソフトウェアについては、使用料(370百万円)を一般管理費の減価償却費から控除しております。

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	20	19	20	19

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の 買取 売渡 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・売渡 手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 (http://www.vitalksk.co.jp/ir/koukoku.html)
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注)当社定款の定めにより、単元未満株主は会社法第189条第2項各号に定める権利以外の権利を有していません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第5期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成26年6月30日
関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第5期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成26年6月30日
関東財務局長に提出

(3) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

事業年度 第2期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) 平成26年8月11日
関東財務局長に提出

事業年度 第3期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日) 平成26年8月11日
関東財務局長に提出

事業年度 第4期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日) 平成26年8月11日
関東財務局長に提出

事業年度 第5期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成26年8月11日
関東財務局長に提出

事業年度 第5期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日) 平成27年1月13日
関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

第6期第1四半期(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日) 平成26年8月12日
関東財務局長に提出

第6期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日) 平成26年11月12日
関東財務局長に提出

第6期第3四半期(自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日) 平成27年2月12日
関東財務局長に提出

(5) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書 平成26年7月2日
関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第1項及び同条第2項第1号(2020年満期ユーロ円貨建転換社債型新株予約権付社債)に基づく臨時報告書 平成26年9月10日
関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(提出会社の主要株主の異動)に基づく臨時報告書 平成26年12月19日
関東財務局長に提出

(6) 臨時報告書の訂正報告書

平成26年9月10日提出の臨時報告書(2020年満期ユーロ円貨建転換社債型新株予約権付社債)に係る臨時報告書の訂正報告書 平成26年9月11日
関東財務局長に提出

(7) 自己株券買付状況報告書

平成26年10月2日
関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年6月26日

株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅 博 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井 上 嘉 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 村 剛 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングスの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングスの平成27年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングスが平成27年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年6月26日

株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菅 博 雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井 上 嘉 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 村 剛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングスの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第6期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングスの平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。